

# 市民の意見

発行：市民の意見30の会・東京

NO.201

2024/2/1

【毎月1日発行】



発行者の住所：〒108-0073 東京都港区三田3-4-17-206 TEL:03-6435-2030 FAX:03-6435-2031  
Eメール：info@iken30.jp ホームページ：https://www.iken30.jp 郵便振替：00120-9-359506 市民の意見30の会  
\* 隔月刊/普通会員（購読料・送料とも）年2500円、協力会員年5000円、敬老・障がい者会員年2000円、頒価1部400円。

心理学をまなびながらも大の芸術好きで、同じ高知に生まれたせつに「将来は医学よりも画家の道を歩みたい」と出会った頃もいらしていた。結婚した翌年の3月に健児郎は出征する。しかし入隊してわずか12日後、機関銃を運搬する訓練中に銃身を打撲し帰らぬ人となる。夫の姓を一度も名乗らぬままのたった3ヶ月の結婚生活だった。淡い思い出と数点の作品だけが残された。「女一人が生きていくには教師か医者しかない時代でしたから」と今も医道に生きるせつは、あの人が死ななかつたら、平凡な奥さんでしたでしょうにと寂しそくに笑った。

（新版 戦没画学生人名録）



「港湾風景」西岡健児郎（無言館所蔵）

## 市民の意見 201号 目次

巻頭 自民党政治と日本の右傾化

中野晃一 2

### 特集1 「終わらない戦争」II

平和のための遺書・遺品展の記録

― 図録を「読む」

岡田裕之 5

武田美通・鉄の造形

― 戦争体験の継承につながるかと信じて

仲内節子 9

心に刻む空襲犠牲者名前の読み上げ

「東京空襲犠牲者の名前を読み上げ、心に刻む集い」

実行委員会 13

### 特集2 福島原発事故を問う

原発の危険は終わらない

この国は福島原発事故から何を学んだのか！

12・18子ども脱被ばく裁判判決

丹治杉江 15

◆ガザアハリー・アラブ病院、

救援の手を

水戸喜代子 18

◆文化

星山京子 22

本紹介 「社会運動史研究」5

北野誉 25

「ワクチン開発と戦争犯罪」

連載 皇室情報の検証⑫

加藤哲郎 26

連載 シリーズ教科書問題③

天野恵一 27

連載 へよそものV目線の広島⑪

高嶋伸欣 30

### ■情報

事務局だより

田浪亜央江 35

市民意見広告運動事務局だより

37

読者のおたより 39

会計報告 24

題字 安西賢誠

印刷・レイアウト

編集後記 40

カット 村雲 司

（有）山猫印刷所

# 自民党政治と日本の右傾化

中野 晃一

日本はどこへ向かっているのだろうか。現代における日本政治の展開をどう理解するかが、国内外で論争的となって久しい。我々から見れば、とりわけ安倍政権以降の自民党政治のもとで日本政治の右傾化が著しいと感じられるところだが、アメリカなど西側諸国では必ずしもそのような評価となっていないことを我々も踏まえる必要があるだろう。

確かに一方では、日本政治の右傾化が指摘され、とりわけ2012年12月に安倍晋三が政権復帰して以来、その復古主義的な政治信念から日本の軍国主義化を懸念する声さえもあがるようになった。歴史修正主義的な政治家が今や自由民主党の主流をなし、他党のなかにも多数見られるようになった事実は無視できない。ただ、近年では関東大震災における朝鮮人虐殺に関わる歴史修正主義が目立つくらいで、安倍なき後の岸田政権では国内外の報道も明らかに少なくなつた。

そうした中で、日本はようやく「普通の国」へと向かう道のりを歩みだしたただで、小泉純一郎や安倍が進めてきた一連の改革や政策変化は、むしろ遅ればせながらの「近代化」や「アップデート」にすぎないという主張もあるのである。経済面で「失われた十年」を取り戻し、中国の台頭など安全保障環境の変化への対応を行なうのは当然であり、それらをもって右傾化と呼ぶ批判は的外れであるというのである。こうした立場から、岸田政権下でも進められる軍事化・同盟強化を歓迎する声が西側諸国ではむしろ主流と言える。

## 見えづらい日本政治の右傾化

### 新しい右派への変質

過去30年以上の長いタイムスパンで、日本政治が大きく右傾化しつつあると捉える立場から筆者はかつて『右傾化する日本政治』を岩波新書として刊行した。2015年のことだがいまだに分析の大筋は古びて

いないと考えている。

この新書で論じた点として、一つには、現代日本における右傾化は政治主導（より正確に言えば、政治エリート主導）であつて、社会主導ではないということだ。日本社会に関して言えば、近年になって右傾化を示すような指標も見られるようになったが、総じて政界における右傾化のほうが時期も早く、振幅も大きい。一般世論がまず右に傾き、それを後追いで政治家や政党が右傾化したわけではない。これがネオナチやトランプ支持者が跋扈する欧米などと比べて、日本政治の右傾化が見えづらい一因であらう。

二つには、右傾化のプロセスは単線的に一気に成し遂げられたのではなく、寄せては返す波のように逆方向への限定的な揺り戻しを挟みながら、時間を掛けて進展したことである。イメージとしては、支点が徐々に右に動く振り子のようなものだ。振り子が右に振れるとき支点も一緒に右に動き、やがて振り子は左に振れるわけだが、前の周期の左端までは戻らず、元の右端ほどで留まる。もちろん、揺り戻しと言っても部分的に過ぎず、さらに右傾化の進捗とともに、単なる小休止あるいは減速と言ったほうが正確なほどまでに右傾化がデフォルト化していった。安倍政権以降、菅と岸田と

2回首相が交代したが、揺り戻しというほどのことが起きずにもう10年以上経っている。

三つには、こうした右傾化の本質は「新右派転換」と呼ぶべきもので、旧来の右派がそのまま強大化したのではなく、新しい右派へと変質していくなかで起きたのだ。

この間、内政面での社会経済政策において「格差社会」「二極化」あるいは「勝ち組」「負け組」という言葉に表されているように不平等が拡大していき、またそのことが規範レベルでも少なくとも消極的には受容されるような変化が起きた。そしてまた、憲法や教育、治安など国家と個人の関係や社会秩序をめぐる問題でも、個人の権利や自由が制限され、代わりに国家の権威や権限が拡張されるようになった。外交安全保障政策においても、日米安保に軸を置きつつも専守防衛に徹する平和主義と中国や韓国を中心としたアジア近隣諸国との和解を志向する従来の立ち位置からの逸脱が進み、歴史修正主義の主流化と海外で戦争に参加できる国への変化が起きた。

新右派転換の過程で、こうした政策変化が「改革」と標榜されるようになったが、もともと「平等志向・個人の自由尊重・反戦平和主義（ハト派）・植民地主義の反省と

謝罪」を左、「不平等や階層間格差の是認・国家による秩序管理の強化・軍事力による抑止重視（タカ派）・歴史修正主義」を右にそれぞれ位置づけて政治座標軸を捉えるならば、中曽根政権以来、日本の政治が次第に右傾化してきていることは、客観的に観察できる事実だろう。

### 右派の政治潮流はどのようなものか

さて、日本における新右派転換はどのような政治潮流がもたらしたのか。実際には30年以上におよぶ政治変化の過程で、新右派連合そのものも時を経て変容してきているが、大きく捉えて「新自由主義」（ネオリベリズム）と「国家主義」（ナショナリズム）の組み合わせによって形成されていると、言って差し支えない。

まず新自由主義であるが、端的に言えば、個人や企業の経済活動の自由を掲げ、そのために政府や社会、労働組合などによる介入や制約を排した自由市場や自由貿易を推奨した、いわゆる「小さな政府」論だ。日本の文脈においても、民営化、特殊法人などの整理統廃合、中央省庁再編などを通じて「簡素で効率的な政府」が目指され、また規制緩和や地方分権などを通じて中央政府の介入を弱めるなどさまざまな行政改革がなされていった。コロナ禍にしても能登

半島地震にしても、日本政府の国家としての行政資源や能力の欠乏は、棄民政策としか呼べないような対応に見られるようになった。

政治経済モデルとしても日本を特徴づけてきた従来の「護送船団方式」が、金融システムなどの規制緩和によって大きく変貌していった。金融業界そのものにおいて統合再編が進む一方、直接金融（株式市場など）の比重や外資持株率の相対的な高まりを通じて、日本経済全体のグローバル化が加速していった。また労働市場の流動化が目指され、多様で柔軟な働き方が提唱されるなかで雇用の非正規化が進展した。

公共セクターの縮小や公共支出の削減、それにとまなう中央政府から地方自治体、企業、家族や個人への権限や責任の委譲だけが、新自由主義的な政治改革や行政改革なのではない。日本の文脈ではしばしば婉曲的に「内閣機能の強化」と呼ばれてきたが、要は総理大臣と内閣官房（いわゆる首相官邸）への権力集中もまた極めて重要であり、イギリスにおいてもサッチャー以来「自由経済」とともに「強い国家」を実現するべく、首相府への権力集中と首相の「大統領化」が進められてきた。

国家から企業経済や地域社会などへの

「分権」を標榜する新自由主義が、逆に国家機構のなかでは「集権」を推進するのは、一つには、行政府の長へと権力を集中しないことには、いわゆる既得権益や合意形成型の政策過程に切り込むことができないからである。新自由主義改革には、国家がそれまで責任を負っていた分野から撤退し、「自己責任」を課す意味合いもあるゆえに、「抵抗勢力」が立ちはだからであり、その壁を突破できるだけの権力の集中を必然的に呼び込むことになる。

このことと政治改革の名の下に導入された小選挙区制は、実は密接に繋がっているのだが、小選挙区制時代の自民党を支えたのが、一昨年以降、改めて注目を集めるようになった統一教会を含めた宗教右翼の支援であり、昨年末より岸田自民党を揺るがす「裏金」である。

### 新自由主義と対の国家主義

さて「自由経済」を標榜する新自由主義と対になって新右派連合を形成したのは、「強い国家」を志向する国家主義であった。これは先に述べたような「改革」実現のためのトップダウン型の強権的な政権のあり方を追求するのにとどまらず、市民社会に対しても国際関係においても、国家の権威を強めようとする保守反動勢力の「失地回

復」運動でもあった。

憲法改正すなわち「自主憲法」の制定、それがダメなら解釈改憲という形の「壊憲」が推し進められるようになった。新右派転換の過程で、日米安全保障体制や「国際貢献」を梃子に、憲法九条の制約を段階的に外し、防衛力増強、国連平和維持活動（PKO）参加、「非戦闘地域」への自衛隊派遣、集団的自衛権の行使容認と「普通の国」を目指した歩みが展開され、ついには集団的自衛権の行使を容認する安保法制、そして「安保三文書」の改定と敵基地攻撃能力の保有、防衛費倍増計画などが進められている。

歴史認識や歴史・道徳教育に関わる問題である。新右派転換が進捗するにつれ、抽象的なレベルで愛国心の涵養を訴えたり、「日本固有の」伝統や文化（「国柄」）の尊重を謳ったりするにとどまらず、実際に教育基本法が改正され、教育現場においても君が代や日の丸の強制が進められた。また、歴史教科書問題、靖国問題、慰安婦問題などが、国内論争の火種としてくすぶりつつけるなかで、日本の保守政治における歴史修正主義、言い換えれば靖国史観が主流化するに伴い、重大な国際問題へと発展していった。ジェンダー問題なども含めて統一教会などの宗教右翼と自民党の共鳴が著し

いのがこれらの問題の特徴だ。

国民たるもの国家に忠誠を誓うのみならず、自ら進んで国家の意思を斟酌し追求するべき（「村度せよ」）である、という教育勅語の教える「国民道徳」は、近代国家とそれに尽くす国民の創成を通じて前近代的な価値秩序を維持しようとした元祖・保守革命（王政「復古」による明治「維新」）としての日本の近代化を下支えした国家保守主義思想そのものであると言える。ジェンダー・バックラッシュや生活保護バッシング、道徳教育推進などで表出したこのイデオロギーは、むしろそれ自体において目新しいものではないが、靖国史観と同様に、やがて新右派連合の前進にともない保守政治のメイン・ストリームを占めるようになった。30年以上に及ぶ「新右派転換」のプロセスで、リベラル左派勢力が分断されてしまったことが、保守支配の再生、強化を可能にしてしまったと言えるが、新自由主義転換の実際の受益者はごく少数の「勝ち組」、典型的にはグローバル資本主義で儲けることができる企業エリートだけなのであって、多くの人々にとって社会保障が切り崩され、営利企業が支配する市場化の波に丸裸で放り投げられることは損でしかない。このため自己責任を説く新自由主義と必ずセットとなってグローバル化時代に保

守統治エリートらによって用いられたのが、復古的で排他的なナシヨナリズムであったというわけだ。格差社会を是正する代わりに、日の丸を振らせ君が代を歌わせ、

日本人としての誇りを持つと、排外的なヘイトさえ扇動し国民統合を図るのだ。それを裏で支えていたのが、統一教会などの宗教右翼であり、「裏金」であったことは再三、

強調しておく必要がある。

(なかの・こういち／上智大学教授)

## 特集1 「終わらない」戦争II

遺書展パネル・朝日ギャラリー―遺書・遺品展の構成

### 平和のための遺書・遺品展の記録―凶録を「読む」

岡田 裕之

昨年の「学徒出陣」80周年記念の「平和のための遺書・遺品展」は、1943年10月21日、文部省他が主催した明治神宮外苑競技場における「出陣学徒壮行会」に合わせて、「わだつみのこえ記念館」が20・24日の5日間、朝日ホールで主催したものである。焦点はここにあったので、「学徒出陣」につき、深い内容の文章を遺した、松岡欣平と佐々木八郎の遺書を展示の軸に据えた。

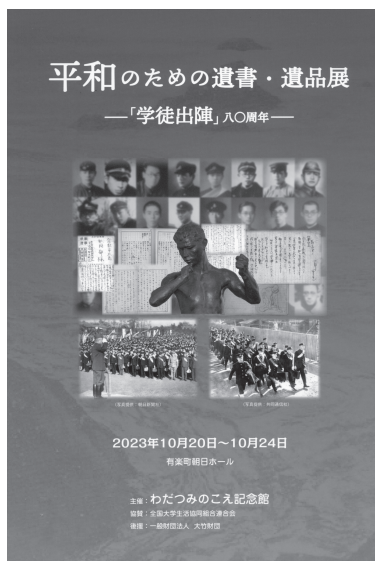
二人とも『はるかなる山河に』1947年から『さけわだつみのこえ』1949年（以下『こえ』と略す）、に採録されているから、御存じの方が多と思うが、松岡はそこ

で、映画『無法松の一生』の原作を想起しつつ、映画の主人公のように「提灯行列がしたい、太鼓を叩きたい」と叫び、戦争を呪い、日本がな自由主義だった時代を回顧する。画像と音響と思想が響き合う感動的な文章である。松岡は自分でも認めているように「映画好き」でのめり込み過ぎないよう自戒しているが、戦中のフランス映画『白鳥の死』の批評など見事だ。

凶録では、この『こえ』の印象的な文章ではなく、9月27日から11月に至る、論文でも回顧でもあり日録でもある46枚に及ぶ長文の「日記集」を、その論理構成に従って再現すべく努めた。本旨は「出陣」にあ

たつての「反戦」の表明だが、国家が学徒に死を求める時、掲げる目的が実現可能なか。「その大東亜の建設、日本の隆昌が遂げられたら死者又瞑すべし。若しそれが成らなかつたらどうなるのだ。死んでも死にきれないではないか。政府よ、日本が現在行っている戦は勝算あってやっつてゐるのであらうか」。松岡は問い詰める（65頁）。

長文は、9月27日（23日、学徒徴兵猶予停止の政府決定）、10月2日、猶予停止の緊急勅令、21日、靴ずれで壮行会参加を断念、25日、夜行列車で徴兵検査のため本籍地富山県へ向かう、車中、徴兵検査の学徒同士で壮行会の「生等もとより生還を期せず」との江橋慎四郎の答辞などを議論、途次、関温泉で一泊、11月9日、帰京（この経過は凶録で一部紹介、66頁）。松岡は長文の結論を述べる。「現在の人間の最も願ってゐるものは平和である。戦争は人殺し、そこに倫理はない」（67頁）。



佐々木は、11月、第一高等学校クラス会の壮行会において、宮沢賢治の『鳥の北斗七星』に寄せて、「愛」と「戦」と「死」という文章を公表、朗読した。そこで彼は「国籍が異なるだけで人を憎み殺すことはできない、憎むことの出来ない敵を殺さないで済むような世界のためには死んでもよい」と宣言した。学徒出陣に当たって心中はともかく、「反対」を明言した文章はこれが唯一のものである。この名文は『はるか』の冒頭を飾り、『こえ』にのっている。図録はここで、「愛」と「戦」と「死」の文章で見逃されてきた末尾の「生産力と経済倫理」という自分の研究ノート（論文）を参照すべきとする注記を重視し、この「生産力と経済倫理」を縮約した、1943年5月14日の「日記」を復元紹介する。記念館は佐々木の分厚い研究ノート群を保有するが、未公開で一般には参照し難いから、

日記を採録している『こえ』を手掛かりにする。

日記（当該研究ノート論文の縮約）の主題は「アダム・スミスへの回帰、Rückkehr zu Adam Smith（ドイツ語）」で、図録51頁の図版から読み取れる。『こえ』からもわかるように、佐々木はマルクス『資本論』の熱心な読者で、これを高く評価していた。ついながら説明を加えると、当時『資本論』は禁書ではあったが素人向けの本ではなく、高島 諷本は手に入ったし、私も中学生ながら松浦訳を眺めていた。だが難解で本書が「危険思想」とは思えなかった。父の本棚にはマルクス主義文献が数十冊無造作に並んでいた。戦中でも多くの東大経済学部生はマルクスを勉強していた。だが同時に「来るべき社会、将来社会」については必ずしもマルクス主義を支持せず、『こえ』に見るように、佐々木は戦後マルクス経済学者として大成する大内力氏（友人）と対立した。佐々木は現在の戦争、進行中の第二次世界大戦、は列強ブロック間の戦争であって、最終後に平和的な国際分業が来るやも知れないと考えたのであろう。そこでマルクスの共産主義ではないスミスの世界を描いた。彼はそれを「愛のエトス（社会倫理）」と表現したり、「全体主義」と言ったりしていて、一義的ではない。戦中

1940年代、東大では新進の大河内一男氏はスミスの『道徳感情論』を、大塚久雄氏はウェーバー『プロテスタンティズムの倫理（エトス）と資本主義の精神』を、紹介していた。

佐々木思想でもう一つ重要なのは、自分には経済学徒として「生産力と経済倫理」を書き遺す義務と、日本社会内で生きてきた自分が国民の一員としては戦場に赴く義務があるとする。彼はこの「二つの義務」の双方を同時に果たすべき、と考えていた。佐々木は戦死の可能性の高い海軍飛行専修予備学生を志願し、1945年4月14日、沖縄海域で特攻戦死する。

\*佐々木の1943年5月14日日記の復元全文は、岡田裕之『日本戦没学生思想』2009年に掲載。

2. 遺書展は遺品展でもあったので、小川清の返還遺品セット・図録63頁、奥村克郎と渡辺太平の返還日章旗・図録26頁、52頁、関口清の絵画・図録76〜77頁、柳田陽一の学帽・図録17〜18頁、が人目を引いた。まず小川清の遺品セット（箱入り）だが、小川は早大出身の第14期海軍飛行専修予備学生で、45年5月11日、特別攻撃隊、第五昭和隊員として第13期の安則盛三機とともに沖縄本島東南海域で米大型空母バンカー

ヒルを攻撃突入し、炎上大破させ、戦場から脱落させた。航空機特攻の「成果」は日本側・米軍側双方の記録から推定すると、約15〜17%である。突入以前に対空砲火で撃墜される特攻機は少なくなかったから、これは確認できた大成果である。小川機は艦橋に激突、空母乗員が小川遺品を保管。遺品は日系人を介して2001年、遺族に返還された。M. ケネディ著「Danger's Hour」邦訳『特攻』は、この事件を詳細に分析した記録だが、氏の来日調査に際し、わだつみ会（一瀬智司・手塚久四）が学徒兵の記録に協力した。

さらに遺品には小川の胸ポケットに同期の特攻隊員・市島保男（早大）、柏倉繁次郎（早大）、平林勇作（法大）、茂木忠（台北帝大）の四人が写る一枚の写真があった。市島は谷田部（茨城県）航空隊で小川と親しく、出撃直前まで交友があった。茂木尚編『学徒出陣の証言、改訂版』（2021年、編者は茂木忠氏の甥で第14期生の記録を引き継ぐ）。茂木忠の学徒出陣期の記録は図録64頁。市島は、45年4月29日、先に沖縄海域で米機動部隊に突入戦死したが、図録54〜55頁、いつも静かに書きものをしていたというほど、多くの日記を遺した。『こえ・第二集』には出陣時、女性から愛の告白を受け同時にそれが永遠の別離となる瞬間の記録があ

る。図録は、市島の最期の言葉として『聖書』マタイ伝の引用を記すが、クリスチャンである市島にとつて祖国防衛の死は同時に自ら背負う「十字架」の死であった。

「人若し我に従はんと思はゞ己を捨て己の十字架を負いて我に従へ」

遺品に戻ろう。関口の油絵は『おつかさん』と未完の『風景のなかの人物』だが、故野見山暁治画伯はこの未完の作品に関口の偉才を見る。しかし、来場者に最も強い印象を与えるのは45年7月、宮古島野戦病院で描いたスケッチ、「もうこれ以上やせられない」自画像と骨と皮の裸体の座像である。実物は手帳に描かれた小さなものだが、1950年5月、東京都の学生は米占領軍撤退を求めて、この「座像」を引き伸ばし巨大な「張りぼて像」に仕立て、デモ隊の先頭にして都心で占領下初めての反米行進を敢行した。

私が会場で解説と質問に答えるため説明していた時、関口の日記を食い入るように眺めて離れない年配の女性から「関口に梅乾を与えた」この角田衛生兵を知っている」と言う。その角田衛生兵は生還したが、「これは私の知る角田衛生兵ではないか」と繰り返し返し聞いてくる。確答はもちろんできないのだが、先の戦争の犠牲者は多く、そのよすがを探し求める関係者は少なくなかつ

た。

3. 展示された遺書も説明する図録も、内容を「読み解く」には想像力が必要で、解読力が求められる。主催者も解説に努めるがもどかしい。展示遺書のすべての解説はできないので、『こえ』の冒頭の上原良司と末尾の木村久夫の二人の遺書を解説して、図録の「読み」を締めくくる。

上原は『こえ』の戦没学生の中で最も「著名」かも知れない。出身校の慶応大学は上原の特別展示室を設けて称揚している。彼は特別攻撃出撃前夜、45年5月10日、報道班員の求めに応じて「所感」を認めた。彼は自分の自由主義の信念を述べ、「全体主義国家（伊独日）の滅亡と自由主義の勝利」を断言した。流れる如き論理と乱れなき立派な字である。図録62〜63頁。8月、全体主義の日本は敗れ、戦後自由主義と平和主義に転換して再生する。『こえ』の冒頭を飾るにふさわしい。

学徒兵を受け入れた軍隊側は、学徒兵が受けてきた「自主的な思考」を否定し、上官の指揮命令に従順に従う兵士に鍛え直すべく訓練を施す。特に幹部候補生（陸軍見習士官）には軍隊教育は厳しく、時に経済的に恵まれてきた学徒兵に対する反感もあって暴力も揮われた。この教育課程で用

いられたのが上官に提出するために学徒兵が記す毎日の「修養録」であった。内務班の鉄拳殴打と「修養録」の検閲により、多くの学徒兵は「従順な軍人」に変質し、適応する。学生気分が抜けない（海上春雄、図録47〜48頁）か、批判精神の強固な者（中村徳郎）は、いわば二重帳簿で上官の眼をのがれ、蜜かに本心を手帳（上村元太、図録34〜35頁）や紙片（鷲尾克己、図録61頁）に書きつける。

上原の提出用『修養反省録』は別であった。そこでは自由主義の正しさが主張され、軍規の欺瞞が暴かれる。「特別操縦見習士官は」一寸監視ノ目ガナイト、自分勝手ナコトヲスル。軍隊の二之ヲ観レバ零デアル。併シ乍ラ人間トシテ観ル場合、コレハ自由主義ノ充溢シタ証拠デアルカラ思想的ニ進歩シテキルト云ハネバナラス。」図録62頁。さらに上原は『修養反省録』で上官と言い争い、上官は赤字で上原を叱責する。これは貴重な記録で図録に採録しなかったのだが、紙幅が足りず割愛した。『こえ。第三集』には採録したい。この上官との「論争」は、上原良司個人遺稿集『ああ祖国よ恋人よ』（1999年）、に掲載されているので参照されたい。

他方『こえ』の最後に置かれた木村久夫

（京都帝大）の遺書は、戦犯に問われたシンガポール・チャンギ刑務所において、偶然入手した田辺元著『哲学通論』の余白に書き入れた遺言である。木村はそこで、1931年の満州事変以来の軍部の横暴とそれを許した日本国民の責任を詳細に論じつつ、戦後の自由で活気ある思想のもと復興に向かう祖国を展望する。だが、木村はインド洋に浮かぶ日本軍の占領地、カーニコバル島で島民宣撫と防衛に尽くしたばかりに、敗戦後、兵卒（上等兵）ながら参謀将校の島民殺害行為の責めを負わされて、絞首刑の判決を受ける。木村は、自由になった祖国に帰り自分の学問への熱い志を生かすことを願いながら、空しく報復の「死」の運命を与えられる。戦争の全経過を振り返り、戦後に希望を託して、自分は死ぬ。

木村の出身校、旧制高知高等学校（現高知大学）は木村が遺贈した書籍の「木村文庫」を設けているが、文庫はスマス、リカード、マルクスは言うまでもなく、ケインズからワルラスと広く古典と現状分析の書物、465冊から成る。生あらば木村はどれだけの学者となったであろうか。木村は歌人、吉井勇に私淑し優れた短歌を遺書に記す。「明日と言ふ日もなき生命抱きつつ文読む心盡くることなし」

文読む心盡くることなし」

図録には大阪朝日新聞社提供の『哲学通論』余白コピーの「遺墨」と母親宛軍事郵便葉書しかない。図録79頁。葉書には「此処（カーニコバル島）に来てからは（軍務は）全く専門に属する事なので、仕事に力が入ります。当地の経済状態、商業状態、政治・民族の社会科学的の観察が今の私の仕事と為つてゐます。殊に此の方面の専門は私唯一人と云う有様」、と学んだ学問が少しでも生かせる任務に木村が喜ぶ状況が目につかぶ。だが占領地で広く住民の民政に接し名前を覚えられるのは危険である。学徒兵木村の喜びは暗転する。図録を見るたび痛ましく、胸をふさがれる思いである。

（おかだ・ひろし／わだつみのこえ記念館館長）



写真 水泳

木村 久夫

遺墨

田邊元著『哲学通論』（余白に記入）

【本文1ページ】

【本文2ページ】



# 鉄の造形「戦死者たちからのメッセージ」は 戦争体験の継承につながるかと信じて

仲内 節子

昨年の夏、私たち「広める会」は久々の武田美通・鉄の造形「戦死者たちからのメッセージ」全作品展を東京で開催しました。何と432通もの感想文が寄せられ激励されたのですが、「こんな凄い作品を全く知らなかった」と書かれたものがかなりありました。作品と出会って20年、作品を懸命に紹介してきたつもりでした。作者の死という絶望的な状況もありながら、恵泉女学園大学の協力も得られて困難を乗り越えてきたのですが、まだ道半ば、この稀有な作品群を更に多くの方にご覧いただき日本の先の戦争の実相を伝えたいと考えています。

## 私は武田作品から戦争を学んだ

思い出せば20年前、工房で「靴を食う」骸骨の日本兵に出会った時、どんなに驚いたことか。戦場での死の多くが餓死・戦病死だったことは知っていたけれど、軍靴を食わなければならぬほどの飢餓の中で死んでいった人々がいたとは。「手りゅう弾の栓を抜けば数秒で爆発する」などという

ことも、自死覚悟の母子の優しい像から知りました。今なお南の島や海底に日本兵の骨が故郷に還るあてもなく放置されていることも、無謀なインパール作戦の結果「白骨街道」には累々と日本兵の屍が横たわっていたことも、武田さんの造形からリアルに想像できま

した。何よりも、日本中を「捕虜になるな」と縛った東条英機の「戦陣訓」さえ、私たちはよく知らなかった。農耕馬を集めなければ弾薬も糧秣も運べなかった日本の国力の貧しさも、愛馬を手

放した農民たちの涙も作品から学びました。ソ連（当時）の国際法違反の強制労働で日本の敗残兵たちが命を失い凍土に埋葬され放置されたこと、命の綱の飯盒が一緒に埋葬されたこと、米軍の同じく国際法違反の原爆で多くの市民が殺されたこと、沖繩の悲しみも優しく描かれました。それらは何となく知ってはいましたが、生半可な知識を武田作品は粉々にしてくれました。それほど鉄の骨たちは雄弁に戦争を語り、叫んでいました、繰り返すな、と。新品の鉄を切り、焼き溶かし、曲げ、溶接し、と



靴を喰らう兵士



母子像



帰還兵が問う

気の遠くなるような作業。鉄は熱いうちに造形しなければ固まってしまふ、完成しても得心いかなければ壊し、再びの作業に。こうして伝えようとした反戦の思いに打たれます。武田さんの柔和な笑顔と作品から表出している凄まじいエネルギーとのギャップに戸惑いますが、優しいからこそ凄まじい作品になるのです。

### 「焼き場の少年」は僕だ、の意味

ローマ法王がカードにして配っていると聞く「焼き場の少年」と名付けられた写真があります。あるイベントで写真パネルの前に武田さんは「これは僕だ。この少年の

直立不動の姿勢は、僕たちに強制されていたもの。僕と同じくこの子は軍国少年。これは僕」と言うのです。哀しい風景と捉えるだけだった私には少年として戦争をくぐった人に時代の空気を教えていただいたように感じたものでした。敗戦の年に10歳だった武田美通さんは戦場体験を持ちません。それでなぜ日本兵たちの戦争被害を描けるのか。聞けば、子どものころ「兵隊さんを自宅に民宿させたことがあり、その優しかったお兄さんたちは、戦争が終わっても還ってこなかった、それはなぜだろう？」と考え続けてきた、というのです。侵略を担ってしまった日本兵も元は普通のお兄さ

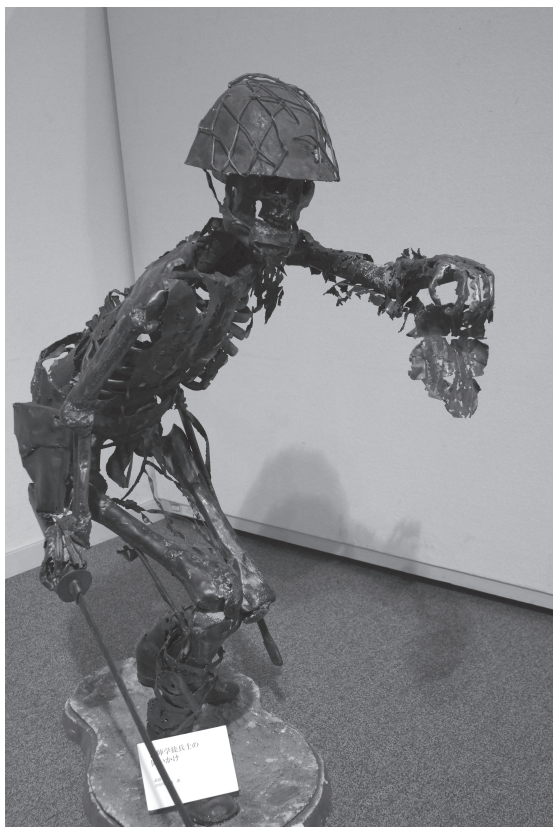
んだったということです。長じて記者になってもからも思索は続けられ、実際に米軍や自衛隊基地の取材も精力的にしていたと。米軍基地での実弾が飛び交う訓練の取材は、疑似体験であつても恐怖だったと語っていました。それらすべての体験が凝縮され作品に結実していると言えます。

戦争体験者が少なくなっている今、体験の継承は焦眉の課題です。明文改憲はすぐそこ、解釈改憲はすでに完了したようで、大軍拡も米国の要請どおり進められていきます。そんな今、武田さんの遺してくれた30作品を広めることは何より戦争体験の継承そのものであり、平和を守れの意思表示で

あると考えています。

## 「時」を逃さず「戦死者たち……」の作品はつくられた

ジャーナリスト生活を定年直前にやめて職業訓練所で溶接を習い資格を得た当初は飾れる作品づくりに取り組み、作品収入もかなりあったようです。転機が訪れたのは、2002年秋頃。日本がまた戦争への道を進みつつあることを察知した武田さんは「こんな作品でいいのか」と自問、あの、戦場から還ってこなかったお兄さんたちの無念を伝える作品づくりに方向を変えたのでした。人には「時」があります。武田さ



学徒兵が問う

んは「時」を逃さなかったのです。「つくらねば」の一心から鉄の骸骨兵が生み出され始めました。収入が無くなることも覚悟したでしょう。そんな時に私たちが武田作品と出会えたのは運命的だったと言えそうです。これは世に出すべき作品と判断し「広める会」をつくり私たちの応援も始まりました。作品展の費用や人手を私たちが提供し、宣伝する……そんな20年の中で、出会った頃には12作品だった連作が武田さんの亡くなった時には30作品になっていました。「みなさんがいなければ続けられたかどうか」と言われたことは嬉しかったのですが、もちろん作者自身の熱い思い無くして珠玉

のような作品群は生まれなかったと思えます。

## いのちの結晶をつぶせない、保存して後世に伝えたい

早朝から運転のバイトで制作費を捻出、昼過ぎから工房にこもる生活となった高齢の武田さんにはきつかったはず。死因が溶接のプロの職業病「大動脈瘤」手術の後遺症だったことは鉄と取り組んだ20年の帰結かもしれません。作品は武田さんの命の結晶です。命を削って戦死者たちの無念を鉄で紡いでくれた、その作品を私たちは守らないわけにはいかないのです。恵泉女学園

### \*武田美通のプロフィール

ただよしと、1935年北海道小樽市生まれ。皇国の少年として育ち、国民学校（小学校）1年の時太平洋戦争に突入、4年で敗戦。早稲田大学で社会学を学び日本経済新聞の記者として10年勤務。以降テレビ東京に転身。60年安保取材をスタートに激動の昭和後半を目標。海外取材を含め36年間のジャーナリスト生活で戦争、国家を追求、米軍海兵隊や自衛隊の取材。60歳を前に造形作家の道へ。当初は音楽家や鳥、花などを造形、400点を越え人気を博した。しかし「戦争をする国」への兆しが見えたとき、テーマ変更を決断。以来15年に及んで「戦死者たちからのメッセージ」を創る。2016年に80歳で没する3カ月前まで制作、連作全30作品を遺した。

（広める会のチラシより）

大学の閉校が決まった今厳しい状況ですが何とか作品を保存し展示しつづけたと考  
え保管場所の提供や資金を求めています。  
でも、まずは多くの方に作品をご覧いた  
だかなくては保存も叶いません。今年4月  
22日から練馬のみなさんとココネリホー  
ルで、8月には3回目の多摩市のみなさん  
との作品展です。ぜひいらしてください。

**白骨街道で倒れていた兵士たちに「国籍」が要るのでしょうか。**

最後に、作品を観た感想文を読むのが何より楽しみだった武田さんがもし読んだらどんなに……と思う感想文を紹介します。

「中国人です。日本に来てもう10年以上。毎日職場に通う道々靖国神社の前を通るとき、もう戦争は終わった、とつくに昔の話になったと自分に言い聞かせます。そうでもしなければ、あの戦争で死んでしまった、殺されてしまった同胞たちへの申し訳なさが胸が引き裂かれそうです。戦争には勝者がいないとわかっているはず。いえわかつているつもりです。それでも、日本人視点からの反戦宣伝にいらだっていました。我が国の人たちがはるかに苦しんでいましたのに、なぜ加害者たちに同情しなければならぬの？ と。でも不思議なことに武田さんの作品に対しては、そのような拒否反

応が起きませんでした。ただ、涙が止まりませんでした。白骨街道で倒れていた兵士たち、そして倒れていく兵士たちに「国籍」が要るのでしょうか。みんなただただ生きていだけではないのでしょうか。「明日は我が身」。戦争は終わっていないのですね。戦争がない世界をつくるのに、私に何ができるのか。(38歳 中国人女性)。

\*連絡先 090-7288-1489 (仲内)  
\*カンパ先 郵便振替 0013-6-630365  
口座名 戦死者たちからのメッセージの会



白骨街道



遺作

「戦死者たちからのメッセージ」

全作品展・inねりま

■2024年4月22日～4月26日 10:00～20:00

■会場：ココネリ・ホール

西武池袋線練馬駅北口（練馬駅に隣接）

■ギャラリートーク

4月22日（月）17:00～18:00 永田浩三さん（武蔵大学教授）

4月23日（火）14:00～15:00 杉田明宏さん（大東文化大学教授）

4月24日（水）14:00～15:00 山田朗さん（明治大学教授）

4月25日（木）15:00～16:00 河合節子さん（全国空襲被害者連絡協議会事務局次長）

◆主催 武田美通・鉄の造形「戦死者たちからのメッセージ」を広める会

☎090-7288-1489（仲五）

E-mail : okera@kna.biglobe.ne.jp

第二次大戦中、1942年4月から1945年8月にかけて東京は米軍による100回以上の空襲を受け、10万人以上が亡くなっています。1945年3月10日の下町を中心とした「東京大空襲」が有名ですが、4月13～14日の「城北大空襲」、5月25～26日の「山の手空襲」、多摩地区への空襲も40回行なわれました。毎年3月10日を中心に犠牲者追悼の集いが行なわれていますが、「10万人以上」というあいまいな全体数が語られるだけで、一部を除いて、正確な犠牲者の数が示され

東京空襲犠牲者の名前を読み上げ、心に刻む活動にご協力ください！  
亡くなられた方のお名前を教えてください！  
読み上げに参加を！

「東京空襲犠牲者の名前を読み上げ、心に刻む集い」実行委員会

2022年 令和4年 3月10日(木) 東京大空襲追悼の集い

# 朝鮮人犠牲者名も読み上げ

## 東京大空襲追悼の集い

2022. 3. 9.  
東京空襲犠牲者の名前を読み上げ、心に刻む

一晩で10万人が犠牲になった東京大空襲では、日本人だけでなく、朝鮮人も命を落とした。一人ひとりの存在を忘れない、との思いで犠牲者の名を読み上げる集いでは今年、多くの朝鮮人の名が並んだ。当時を知る生存者は、戦争の無残さを改めて訴えた。

### 日本人を合わせた1582人

「金鳳石」「河合ゆみ」などが東京大空襲の被害者の弟を亡くした。この日の東京大空襲・戦災資料センター（江東区）で開かれたランティアら24人が約2時がスタートして、民間の失われる命がある。77年前の私たちが、一日も早い終息を願う」とあいさし

集いでは、犠牲者一人ひとりの名前が読み上げられた。江東区

空襲の被害を説明する朴善植さん（横浜市）

ることはありませんでした。ひとくくりに「10万人の犠牲者」が繰り返される中で、亡くなった一人ひとりの存在が軽んじられ、見えにくくなってきているように感じてきました。一家が全滅され、遺族のいない方々はあと数年たつと、完全に忘れられ、歴史から消えてしまうのではないかと危惧します。

戦後78年を経て、記憶の風化が一層進むことが懸念されます。せめて年1回お名前だけでも読み上げて、お一人おひとりの供養と追悼を行なうべきではないかと考えて、2021年から毎年3月10日前に犠牲者の名前を読み上げる追悼の集いを開催してきました。

お一人おひとりの名前を読み上げるだけの追悼イベントですが、空襲を受けたその日まで生きておられたお一人おひとりを心に刻んで、忘れず、平和を誓う活動です。昨年（2023年）で3回を数え、読み上げる犠牲者の名簿も少しずつ増えてきました。が、まだ2千人に満たない数です。（2021年410人、2022年1582人、2023年1928人）

東京都は約8万5千人の名簿を持っていますが、個人情報理由に公開しません。そのため、私たちが個別に調べて、名簿や情報をお持ちの方に提供をお願いして、お

名前を増やしてきましたが、まだまだ少なく、全体の50分の1です。無差別爆撃の犠牲者は民間人が中心で、老若男女を問わず、日本人だけでなく、朝鮮人・中国人・米国人も含まれていましたが、それらの犠牲者名簿も提供いただき、知られざる犠牲の歴史を学んできました。

この活動に、ぜひもっと多くの方々のご協力、ご参加くださるよう呼びかけます。2024年も3月3日に読み上げを行ない

ます。

【お願い】

□ご遺族の方はぜひ、亡く

なられたご家族のお名前をお知らせください。

□犠牲者の名簿や慰霊碑などをご存じの方は、ぜひお知らせください。

□3月3日、読み上げの集いに参加ください。どなたでも参加できます。

(リモート可)  
□名簿の整理や読み上げの集い準備をお手伝いください。

□こうした活動が継続して

行われていることをまわりの方にも伝えて広めてください。（チラシなどの配布にご協力ください。寄付・カンパも歓迎です。詳しくは左記HPをご覧ください。）

「東京空襲犠牲者の名前を読み上げ、心に刻む集い」

2024年3月3日（日） 10:00-17:00  
会場：東京大空襲・戦災資料センター  
住所 東京都江東区北砂1丁目5-4  
電話 03-5857-5631  
<https://tokyo-sensai.net/>

- この日収録した読み上げの動画は、3月9日頃にYoutubeで限定公開予定です。
- 名前の読み上げ、名簿の紹介、詩の朗読、分かち合い（感想や意見交換）などを予定

「東京空襲犠牲者の名前を読み上げ、心に刻む集い」  
実行委員会

- ◆連絡先
- ☎090-5406-2577（河合節子/実行委員会代表）
- Fax：03-3616-5531
- E-mail：names.of.air.raid.victims@gmail.com
- HP：https://namesofairraidvictims.jimdofree.com/

## 原発の危険は終わらない

### この国は福島原発事故から何を学んだのか！

丹治 杉江

#### 能登地震と志賀原発

元日に能登半島に最大震度7の地震が発生。被災された皆様には心からお見舞いを申し上げると同時に、1日も早いインフラの復旧が進むことを願ってやみません。私も3・11福島原発事故時には原発から34キロのいわき市に居住していました。繰り返し大きな揺れ、断水や家屋一部損壊、固い乾パンと冷たい長期保存水を飲み、トイレは庭に穴を掘り用を足しました。そこへ原発水素爆発による放射能が降ってきたのです。いわき市は15日には23・7 $\mu$ Sv/hが計測され、あまりの恐怖に車に身の回りのものだけ詰めて、1か月間は会津地方にその後12年群馬県で暮らしました。どこからの支援もない避難でした。

能登被災地では今も命をつなぐための懸命の取り組みが続いています。福島の教訓が全く生かされていない事態に忸怩たる

思いです。救済に一刻の猶予もない中、横須賀中央駅で小泉進次郎議員が「能登半島地震被災者救援募金箱」を掲げ、道行く人々にこやかに握手などしている様子が報道されました。この緊急事態の中で与党の元環境大臣がやるべき事は子どものお財布から義援金をもらう事ではなく、いかに国が全力で被災者の命を救う対策をとるか、ではないでしょうか。現に熊本地震と比べ自衛隊の活動が遅く、小規模になつている事、避難所の備蓄想定も不十分であったと報じられています。「早く何とかしないとみんな死んじゃう！」とテレビ画面にいら立ちをぶつけるしかない自分が情けないです。

さらに、志賀原発。強い揺れと3メートルの津波に襲われ、変圧器から約2万リットルの油漏れ、外部電源の一部から受電ができなくなるなどのトラブルに見舞われ決して安全な状況ではないのです。さらに、福井県の老朽高浜原発で配管から蒸気漏れ

や、冷却水漏洩など不具合が相次いで見つかっています。勿論、再稼働準備が進められている新潟の柏崎刈羽原発も心配です。今回の地震により家屋の倒壊や道路の寸断、モニタリングポストが一部測定不能になりました。原発事故時に身を守るには、

正確な情報確保、遠くに逃げるか屋内退避で放射能を遮断する事ですが、地震被災地では不可能なことがまた明らかになりました。現在、再稼働の要件、自治体が策定する「避難計画」の前提となる原子力災害対策指針の非現実性がつきつけられた形となりました。まずは、志賀原発が停止中で本当に良かった、と思いますが、しかし、たとえ停止中であってもそこに「原発施設」がある限り重大事故の危険があるという事を改めて思い知らされました。原子力防災計画は、住民を被ばくから守る最後の壁ともいえるべきものであり、原子力災害対策指針はその土台となるものです。これらが現実には機能しないのが明らかである以上、原発を動かすべきではありません。

#### 福島の今

原発事故から12年。日本史上最大の放射

能公害事件は無辜の民の人生を狂わせ、戦後最大の国内難民を生み、今も被災地域、多くの被災者に深い苦悩と分断をもたらしている。人々には不安や苦しみを回避させるため「忘れる」という素晴らしい能力が備わっていますが、その事を利用したのは被災者ではなく権力側。『福島復興』電力不足や電気代の高騰解消、地球温暖化対策のために、原発再稼働という原子力ムラの台本が日本社会で信じられないほど上手く演出され、多くの国民はすっかり騙されつつあることに愕然とします。そしてまた原発「新安全神話」が日本中を席捲し始めました。

### 原発事故損害賠償訴訟10年闘って

事故後、4つの事故調査委員会が立ち上がり、福島原発事故は「事前の事故の防止対策や事故後の被害拡大防止策について問題点が複合的に存在した」国会事故調は「今回の事故は明らかに〈人災〉である」としています。にもかかわらず、過酷な避難生活や放射能と隣り合わせの生活を余儀なくしている在住者は加害当事者から「福島で良かった」「最後は金目でしょ」などの暴言を浴びせられて切り捨てられています。私は避難者群馬訴訟原告として地裁・高裁・最高裁で筆舌に尽くしがたい避難の苦難

と、勝手に線引きされ切り捨てられた「自主避難」(私は自力避難と言っている)の正当性を証言しました。国側は高裁控訴審で自主的避難者に対し「……避難継続の相当性を肯定して損害発生を認めることは居住する住民の心情を害し、ひいては我が国の国土に対する不当な評価となる」から「容認できない」と主張しました。避難の必要有無の判断は問答無用で、国に従えといわんばかりの暴論です。そして世界中を震撼させた原発事故の責任について最高裁においても2022年6月17日『国の責任なし』と判決を下しました。勝利の「旗出し」を準備していた私は悔しくて泣き崩れました。あの時の怒り、虚しさ、理不尽さは生涯忘れません。

### 福島事故は終わらない

政府・財界は福島浜通り復興政策として惨事便乗型のイノベーションコースト(国際研究都市)構想を打ち出しました。廃炉のための技術や人材育成を隠れ蓑に、ロボットやドローン、水素、情報、航空宇宙開発などハイテク産業の集積、育成の巨大プロジェクトです。

ほんの12年前まで、穏やかにつつましく暮らしていた山里が突然原発事故で汚染され、人々は逃げまどい今だに国内難民状態。

その地を使って、産学軍研究施設の建設など、あらたな「復興災害」です。被災者の「ふるさと返せ! 生業返せ!」の声は戦争や金儲けのためのハイテク機器の金属音にかき消されようとしています。

岸田首相はGX(グリーン・トランスフォーメーション)実行会議で、原発の再稼働、運転期間の延長、革新炉の開発・建設などの政策を突然決定。どんなに革新炉であっても使用済み燃料(核のゴミ)を生み出す点は全く同じ。ロシアのウクライナ侵略で原発は有事には自国に向けられた核基地になるのです。さらに腹立たしいのは、国民を欺くため膨大な税金を投入し「安全性を保障した汚染水海洋放出」などTVコマーションをたれ流し、「復興予算」まで軍事費へ流用することは国民に対する裏切り行為です。そもそも福島原発事故現場は危機的状況のままなのです。

- ① 溶け落ちたデブリ全量推定880トン。取り出せても最終処分の見通しはない。
- ② 原子炉格納容器蓋付着セシウムは3.11の23倍以上の量。地震・台風などで老化が激しい建屋がどこまで持ちこたえるか? 拡散すれば、関東全域は避難地域となる量。
- ③ 廃炉に伴い発生する「原子炉建屋構造物や制御棒」などL1放射性廃棄物総量28万トン!、規制委員会規制基準ではすべて地下





福島県楢葉町にある伝言館\*

70メートルより深く埋めて3〜400年は電力会社管理、後10万年は隔離保管。不可能！。

④汚染水（アルプス処理汚染水）海洋投棄問題。現在129万トン余が10000基のタンクに。さらに今も増え続けているのです。

経産省のALPS小委員会報告は、「トリチウムの影響が出る被ばく形態は内部被ばく」であることを認めました。内部被ばくは食物連鎖を通して生物に濃縮されてい

くのです。いくら希釈しても、投棄総量は同じ。ましてや保管タンクの7割以上にストロンチウムや炭素14など基準値を上回る放射性物質があることが発覚。東電は「処理途上水」と言い換え、再処理する、風評対策すると言いますが、信用できません。

大型タンクでの長期保管やモルタル固化、遮水壁の新たな建設など別の対応策を早急に検討すべきです。

### 福島第一原発で作業員が汚染廃液を浴び、被ばくする重大事故発生！

10月25日に、汚染水処理の基幹となる「多核種除去設備（ALPS）」で作業員が洗浄廃液を大量に浴びた被ばく事故が起きました。現場にいないではない職長資格を持つ班長が下請け3社のうち1社で不在。東芝はルール違反と認識しながら、作業の実施を優先させていたことが判明しました。

汚染水関連の作業では、2013年に作業員が誤った配管を外して11トンが漏れ、不十分な装備で止水作業をするなどして6人が被ばく。15年には命綱をつけていなかった作業員が保管タンク上部から転落し、死亡。

今回の被害の実態不明のまま、3回目の海洋放出が8日後に始まりました。東電が強調する「透明性高く情報発信する」「幾

避難指示が解除された区域での小中学校の通学者数の推移（2023年6月）

市町村名	2010年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年（事故前比）	備考
田村市・都路	228人	110人	91人	74人	72人	65人	58人（25.4%）	
南相馬市・小高	1,087人	126人	112人	113人	110人	90人	119人（10.9%）	
川俣町・山木屋	99人	15人	3人	3人	7人	8人	5人（5.0%）	2019年より小学校が休校となっている
広野町	541人	219人	240人	222人	253人	264人	265人（50.0%）	
楢葉町	686人	107人	109人	139人	146人	171人	180人（26.2%）	
富岡町	1,487人	23人	26人	40人	48人	56人	67人（4.5%）	
川内村	166人	65人	65人	71人	77人	70人	64人（38.6%）	
浪江町	1,773人	7人	16人	26人	31人	39人	62人（3.5%）	
葛尾村	112人	18人	14人	13人	12人	15人	14人（12.5%）	
飯舘村	531人	79人	61人	65人	59人	68人	82人（15.4%）	小中一貫校
双葉町	551人						0人	小中学校ともまだ戻っていない
大熊町	1,127人						20人（1.8%）	小中一貫校
合計	8,388人	769人	737人	766人	815人	846人	936人（11.2%）	

（伊東氏聞き取り調査による）

重にも安全確保」姿勢は全く感じられませんが、人命軽視の汚染水投棄は今すぐ中止すべきではないでしょうか。

### 汚染水海洋放出差止訴訟が始まりました

「ALPS処理汚染水海洋放出差止訴訟」を福島地裁に提起。原告は全国の漁業関係者、市民、避難者など363人です。私が原告団事務局長を務め、国と東電、いえ「巨大原子力マフィア」を相手に人権と環境を守る闘いを始めます。一緒に裁判を闘って下さる支援者を募集中。裁判は国内外からの専門家証人の費用など大変お金がかかります。今は原告も弁護士も全部自分たちの持ち出しでスタートしましたが、長い闘いです。ぜひ皆様のご支援を宜しく願います。

### 最後に

私は日本史上最大最悪の原発苛酷事故の歴史の証言者となりました。過去の事ではないのです。生きとし生けるものの生存を脅かす「核の火種」は茫茫と

- HP : <https://alps-sashitome.blogspot.com/>
- メール : [sashitome.shien@anppa.org](mailto:sashitome.shien@anppa.org)
- 支援する会 募金口座
- みずほ銀行 いわき支店 普通預金口座
- 口座番号 3045465
- 口座名「原発汚染水の海洋放出差止めの裁判を支援する会会計 吉田力」

燃え続けています。原子力ムラは憲法の番人、最高裁まで飲み込んでしまいました。福島事故が終わった事にされそうなのに「究極の悲劇は、悪人の圧政や残酷さではなく、それに対する善人の沈黙である。われわれは敵の言葉ではなく、友人の沈黙を覚えていくものなのだ。問題に対して、沈黙を決め込むようになったとき、われわれの命は終わりに向かい始める」というキング牧師の言葉が胸に刺さります。

## これ以上、子どもを被ばくさせるな

### 「子ども脱被ばく裁判」は最高裁へ

水戸 喜代子

### 子ども脱被ばく裁判に至る経過

事故が起きた時、原発事故に関心を持ち続けていた人たちの頭にまず浮かんだのが25年前のチェルノブイリ原発事故の教訓だった。チェルノブイリでは白血病はじめ、数百人規模で子どもの甲状腺がんが発生した事実は運動内部でよく知られていた。事故発生とほぼ同時に、北海道、京都、岡山など全国各地で市民が自主的に「保養所」を立ち上げ、「原発事故が起きたら、まずは子どもを1メートルでも遠くに避難

どうか福島原発事故被害はより複雑に、深刻に続いている事を忘れないでください。榎葉町宝鏡寺境内フクシマ「伝言館」ご来館お待ちしております。

(たんじ・すぎえ)ALPS処理汚染水放出差止訴訟原告事務局長・ヒロシマナガサキビキニフクシマ「伝言館」事務局長)

\*編集部注・福島県楢町にある伝言館 双葉町に国策で作られた「伝承館」に対して、市民の視点で原発事故を伝え続けている。

させること」というセオリーどおりに、きれいな空気と食べ物を用意して、福島の子を温かく迎え入れた。これもよし、ボランティアでなくて国が率先して行なっていたら、300人を超える甲状腺がんで苦しむ子は出なかつたかもしれない。チェルノブイリの悲劇を原発事故だけではなく、人命救助という面でも、国は生かさなかつた。いやそれどころか、国は、IAEAに導かれて、原発事故という大惨事をいかに経済的に安上がりになり切るか彼らなりのやり方でチェルノブイリからたっぷり学んでいた

のである(※1)。

チエルノブイリを教訓としたもう一つの取り組みが「ふくしま子ども集団疎開裁判」だ。法的手段を使って、子どもを安全なところに避難させようという取り組みで、事故から3ヵ月後、郡山市の小中学生14名が



子ども脱被曝裁判の会 HP より

郡山市を相手取って、法律どおりの環境(年1ミリシーベルト以下)に避難させて、そこで学校教育を行なうことが憲法・教育基本法の理念に沿うものであるとして提訴した。この裁判にもしも勝訴していたら郡山市の小中学生3万人を強制疎開させることにつながったはずだが、福島地裁郡山支部はその年の12月に不当にも却下、異議申し立てをした仙台高裁では、「由々しい事態の進行が懸念されるが、一人ひとりが転居するしかない」として、国の責任に踏み込む勇氣を持たず、子どもを見捨ててしまった。

裁判の行方を見守った福島の子を持つ私たちは、このままでは自分たちの子どもを守れないだけではなく、次の事故でも同じことが繰り返されるのではないかと立ち上がった。

・避難の時なぜ正しい情報が与えられなかったのか? ・情報のある人の姿が消えていく? ・直ちに健康に影響がないという枝野官房長官の真意は何だったのか? ・子どもの健康が不安(鼻血、体調不良等) ・公民館での山下俊一の話は信じられない ・安定ヨウ素剤を県立医大の関係者だけ飲んだのに、子どもたちには飲ませてもらえなかった。

これらの訴えを弁護団は、子ども人権

裁判(行政訴訟)と、親子人権裁判(通称親子裁判)(国賠訴訟)の二つの訴訟に整理した上で、「子ども脱被ばく裁判」として併合審理の形に整えた。この提訴に対して国・県・自治体側は、このような裁判を起こすこと自体が許されないとして門前払いを下を主張。あたまから健康被害などあるはずがない、あつてはならないとする「被ばく」をタブーとする言論統制(※2)と闘いながら、2014年8月に「子ども脱被ばく裁判」が福島地裁に提訴された。

### 親子裁判は何を問題にしたのか

原発事故のあと、国・県がまともな被ばく対策をとっていれば、受けずに済んだ被ばくをさせられ、今後の人生を被ばくの不安と共に歩まなければならない精神的苦痛を被ったとして、その代償に一人10万円を国に請求した。目的は金額ではなく、国・県に二度とこのような違法行為による人権侵害を起こさせないために金銭的ハードルはあえて低くした。では事故のあと、国・県によって一体どのような違法行為が行われたのか?

1. SPEEDI情報が開示されなかった。そのために線量の高い方角に逃げた原告もいた。

2. 子どもに安定ヨウ素剤を与えなかつ

た。県民健康調査で300人を超える悪性甲状腺がんが発見されている。

3. 20 mSv基準の高線量下で学校が再開されてしまった。

4. 福島県放射線管理アドバイザー山下俊一医師が県下各地の公民館を歩いて科学に反する安全を語り歩いた。その結果、窓を開け放つようになったと原告は法廷で語った。

法廷で証言台に立った山下医師は10項目を超える科学的虚偽発言を認めた上で、クライシスコミュニケーションとしてやむを得なかったと開き直った。

### 主文から判決を読み解く

◆判決主文で、「無用な被ばく」による「損害」が各項目でどのようにどの程度受けたかを国の責任との関連で示していないので失当である」とした。

この判決文の間違いがどこにあるのか？ 皆さんも一緒に考えてみてほしい。

どんなに低線量であっても、被ばく量に応じて発がんリスクがあり、被ばく量と発がんリスクは、比例関係にあるというのが、日本政府も大好きなICRPでさえ認めるLNT直線モデルの考え方だ。100 mSv以下の領域については、実体が解明されていないので仮説とされているが、比例関係

(ゼロを通る直線)、つまり被ばく線量が増せば、その分がんリスクも増えることがわかっていて、読者の皆さんもこの科学を共有したうえで判決文をも一度読み直してほしい。この裁判で求めている「追加被ばくをさせた国の責任を問う」意味が分かっていただけだと思う。裁判長には世界の常識であるLNTモデルを学ぶところから始めよと言いたい。論理破綻は具体項目で一層明らかになる。

◆事故直後の子どもに係る重大な場面で、行政が無制限の裁量権を行使して決定がなされたことを合法とした地裁判断を不当として、法によらない無制限の裁量は高裁段階の重要テーマだった。弁護団は議論を尽くして違法性を指摘したが、判決に一切の言及がなく、重要事項の「判断の遺脱」にあたる」と弁護団は指摘する。司法の惨状を見る思いだ

### 個別の国の違反行為をどう裁定したか

1. SPEDDIの不正確性を理由に不開示を正当化した。その結果、予測計算に基づく避難を困難にし、避難の権利を奪うことにつながる。

2. 子どもたちにヨウ素剤を服用させなかったことを罪ではないと裁定した。

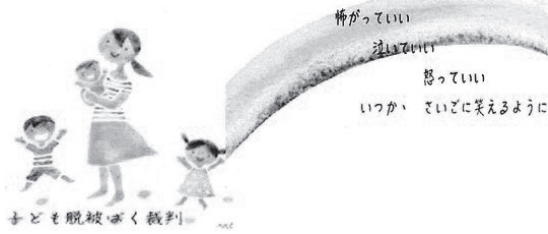


WHOは子どもに対する安定ヨウ素剤の投与指標を「甲状腺等価線量10 mSv」と決め、世界はそれを採用している。日本では山下俊一の「大人と子供を区別するのは紛らわしい」という主張で大人と同じ100 mSvを指標と定めて与えなかった。ポーランドでは1000万人の子どもの投与され、一人の甲状腺がん患者も出さなかった実例を弁護団は示したが、判決では行政の裁量の範囲であるとして免罪した

3. 年20 mSv通達の違法性について原告側は法律で保障されている1 mSvが

福島の子どもには保障されていないことを違法とした。

それに対して判決では、緊急時まで想定して1mSvが決められたわけではなく、ICRP2007年勧告(※3)を暫定的な目安として20mSvを通達し、学校を再開したのは不合理ではなく、国際人権に照らしても、判断は変わらない。ALARAの原則も不合理ではないとした。そもそも2007年勧告はまだまだ法律になっていないし、緊急時と平常時で適用を区別する概念はこれまでなかった。グローバー報告では「身体」に直結する権利については、社会・経済的影響を勘案する(「ALARAの原則」)ことは不適切であると強調しており、このような考え方は世界では通用しないと弁護団は指摘した。年20mSv基準を文科省がきめたことを受けて、当時の内閣官房参与(放射線担当)の小佐古氏(東大教授放射線学)は学者生命にかかわると言って辞任されたが、2011・9・26西日本新聞のインタビューに「除染対象となる



3000校以上を10数校に縮小するための政治的な理由からに過ぎなかった」と答えている。

#### 4. 山下俊一発言の違法性について。

判決では、山下氏は県の公務員ではないから裁量権の逸脱や乱用があっても、県の公務に当たらないと免罪したが、県から委嘱された放射線管理アドバイザーは国家賠償法上の公務員であるので明らかなミス。また判決では「科学的知見に著しく反する内容ではない」とし、山下発言が原告らの被ばく回避行動にどのような影響を与えたかも不明だからと免罪した。この裁定が如何に福島県民感情からずれたものであるか、山下証人尋問当日の溢れかえった法廷の熱気から裁判長は感じているはずである。専門家が市民の不安に乗じてウソを振りまく罪は天が許さない。

56名の原告が1月4日最高裁に怒りの上告をした。

※1 1996年4月 IAEA「one decade after Chernobyl」公表。

1996年 ジャック・ロシヤールがベラルーシでエートス運動開始。

2007年(※3)の2007年勧告が次の事故に備え発表。福島で法律として国会を通る前に世界で最初に適用された。

※2 言論統制の一例

提訴直前の2014年4月、美味しんぼ事件が発生。集団疎開裁判の会は「表現の自由抑圧に抗議する」として記者会見を開いた。健康不安すら口にできなくなるような風潮を煽る、重大な言論統制にあたるとして抗議した。

4月末 ビッグコミック『美味しんぼ福島の真実編』の鼻血が出たという記述が問題視

5月7日 双葉町、福島市、小学館に抗議文

5月8日 環境省見解発表月

5月9日 石原環境相大臣新聞で不快感表明

5月12日 大阪府知事、大阪市、小学館に抗議文

5月13日 復興相、消費者相、国土交通相、文科相が批判

5月14日 福島大学学長、荒木田准教授に注意

(除染の効果を否定する発言をとらえ)

5月17日 安倍総理が批判 (一覽表は記者会見をした弁護団による)

2013年9月、安倍晋三首相(当時)は東京

五輪招致に向けてIOC総会の場で、原発は「ア

ンダーコントロール」であると宣言して、原発

事故を不安視する反対票を制した。最大のネッ

クは原発問題だったから、オリンピックを遂行

するために汚染水問題も、ましてや健康被害な

どはあってはならない不都合な真実だったので

ある。

※3 ICRP2007年勧告、「緊急時には20(100mSv)年、復旧時には1(20mSv)年」を公衆の被ばく限度とした。平常時の年1mSvは変更なし

【子ども人権裁判】部分については、次号に続きます。ご期待ください

(みと・きよこ)子ども脱被ばく裁判の会・共同代表

# ガザアハリー・アラブ病院、 救援の手を

星山 京子

ガザ市の北部にあるアハリー・アラブ病院は1882年に設立された病院です。ガザ市内で最も古い病院の一つであるアハリー・アラブ病院は当初、キリスト教の南部バプテスト教会によって運営されていましたが、1980年代になってイギリス国教会系である聖公会エルサレム管区による運営に移りました。

アハリー・アラブ病院を支援する会（共同代表／藤田進・東京外国語大学名誉教授、村山盛忠・日本基督教団隠退牧師）は、1991年、アラブの民衆を苦しめた湾岸戦争の「停戦」の後に、真の意味での平和的貢献を求めて日本基督教団社会委員会を窓口設立されました。設立の呼びかけには次のよう



に記されています。「アメリカ指導型の『中東和平』ではなく、アラブ民衆にとっての人権・平和の実現がわたしたち自身の願いである限り、わたしたちはアラブ民衆の窮状打開に向けての実践的支援活動に取り組みねばならないでしょう。それが、世界的規模でつくりあげる民衆の反戦・平和運動の一環なのだということを、わたしたちは自覚すべきだと思います」「国家が民衆を犠牲にする戦争への道を目指そうとするなら、わたしたちは国際民衆連帯をもってこれと対決し食い止めることに、反戦・平和の意志を発揮しようではありませんか」とあります。

この呼びかけ文が記された1991年から32年が経過してもなお、パレスチナに平和は来ないどころか2023年10月7日から始まったガザ攻撃により、現時点で2万6千人以上の人が殺戮され続けているという現実を前に、わたしたちは涙を流すことしかできないのかと、悔しく、胸が張り裂ける思いでいます。



アハリー・アラブ病院は、地域では大きな病院のひとつで、ベッド数は80床あり、近年では、とりわけ紛争によって心に傷を受けた（PTSD）子どもらへ向けての活動や、病院へ来られない人びとのための移動病院を展開したり、あるいは貧しい地域の人びとへフードバスケットを用意したりと、最も弱い人びとへ支援を差し伸べ、ガザの人びとにとってなくてはならない拠点となっていました。アハリー・アラブ病院には世界各地から医師が来て、敵味方関係なく全ての人びとに可能な限りの医療を提供しています。

そのアハリー・アラブ病院が10月18日にイスラエル軍により爆撃されました。18日の爆撃の数日前にイスラエル軍は警告と称して病院の2階と3階のフロアを攻撃しました。この時、アハリー・アラブ病院の中心には多くの市民が避難しており、18日の爆撃で多くの人の命が奪われてしまいました。病院の医師、スタッフに死傷者が出な



かったため、すぐに救助が始まりました。その後、イスラエル軍の北部攻撃が激しくなり、病院の様子は医師が上げるX（旧Twitter）などでしかわかりませんでした。イスラエル軍はハマスが病院に隠れているなどという不確か、というよりもあり得ない理由で次々と他の病院も攻撃し始めました。

アハリー・アラブ病院とコンタクトが取れず、非常に心配していましたが、支援する会は、この紛争が終わった時、アハリー病院を必ず再建させねばならないという一心で募金活動を、いつも以上に大きな声で訴えました。12月の終わりになって、スタッフがスハイラ・タラツイ病院長にメールを送って見たところ、1月になって返信が来ました。病院は、ガザの北部で治療を続けている、皆さんの支援が必要だという訴えでした。1月12日のメールの一部を引用します。

「民間住宅への爆撃が続き、広範囲におよび強制移動命令がイスラエルから出されたため、ガザ人口の85%にあたる190万人以上がより南部へと移動を強制されました」  
「病院は患者や避難者で混雑を極めており、たいへん危険な環境で診療を続けています。緊急外来では1日に300人を超す犠牲者を受け入れ、ベッドも負傷者で溢れ、多くの患者が廊下や礼拝堂で治療を受けています。毎日、15〜20件の手術が時間を延長して行なわれています」  
「このような困難な状況にあっても、今回の暴力の負傷者、犠牲者に最善のケアを供給することを続け、かれらの命を救うために揺るぎない覚悟を維持することが私たちの義務だと感じています」とあります。

アハリー・アラブ病院はガザの人びとの命の砦となって



アハリー・アラブ病院 (1991年村山盛忠氏撮影/アハリーアラブ病院を支援する会ニュース・レター No.40 より)

います。スタッフは少ない食事でも不眠不休の勢いで、なすべきことをなしています。いま、私たちが出来ることは少ないのですが、アハリー・アラブ病院の関係者は、遠いこの地の応援、支援が続いていることを励みに、日々の厳しい状況と対峙しています。パレスチナ問題の難しさに絶望する前に、今ここで私たちがなすべきことを考え、ガザで生き抜く人びとと連帯してゆきたいと願っています。

(ほしやま・きょうこ/アハリー・アラブ病院を支援する会)

写真提供：アハリー・アラブ病院を支援する会

市民の意見30の会・東京  
2023年11月～12月 会計報告

収支計算書

収入の部		支出の部	
一般会費	205,000	印刷費*3	425,329
協年会費	60,000	発送費*4	191,910
敬老会費	354,000	編集経費*5	62,614
グリーン会費	0	旅費交通費*6	139,950
(会費小計)	619,000	家賃	244,446
カンパ	194,000	通信光熱費	56,466
事務所費分担*1	200,000	事務経費	58,961
雑収入*2	15,790	銀行手数料*7	7,095
受取利息	0	諸会費	0
		租税公課	0
収入計	1,028,790	支出計	1,186,771
		収支差額	▲ 157,981
前期繰越	11,997,842	当期残高	11,839,861

貸借対照表 (2023年12月31日現在)

資産の部		負債・資本の部	
現金	21,296	預り金*8	215,000
預貯金	13,757,100	FIY基金	2,203,535
敷金	480,000	正味財産	11,839,861
合計	14,258,396	合計	14,258,396

(\*1)意見広告運動事務所経費分担金。(\*)2)グッズ・会報販売。(\*)3)会報12月号・封筒印刷。(\*)4)会報他DM便等。(\*)5)執筆謝礼図書カード、打合せ通信交通費他。(\*)6)事務所通所費(意見広告運動ボランティア通所費含)他。(\*)7)郵便振込通知書発行料含。(\*)8)意見広告運動賛同金預かり金。

※会費期限(会報「市民の意見」講読期限)は、お届けする封筒の宛名シール下部に記載されています。会計管理上、会費前納は3年を越えないようお願いいたします。これを越える会費前納が重なりますと、カンパ扱いとする場合があります。

◇他団体が募集する賛同金・カンパを、小宛宛での振込用紙を使って振り込むことがないよう、ご注意ご配慮をお願いいたします。



先月のアハリー・アラブ病院での爆発で負傷した数百人のパレスチナ人は、アル・シファ病院に移された。現在、アル・シファはイスラエル軍の砲撃の標的となっている [Mohammed Al-Masri/Reuters] (アハリーアラブ病院を支援する会ニュース・レター No.40 より)

アハリー・アラブ病院へのご支援は、  
こちらの口座へ

郵便振替：00150-7-601525

ゆうちょ銀行：019支店 当座0601525

口座名：アハリー・アラブ病院を支援する会

(領収書が必要な方は通信欄に記入、

もしくは ayyam\_ahli@yahoo.co.jp までメールを)





『社会運動史研究5  
直接行動の想像力』

大野光明・小杉亮子・松井隆志編

新曜社、2530円税込

2019年から年1冊ずつ刊行されている雑誌型メディアの最新号が発刊された。特集は「直接行動の想像力」。

本誌の読者にとっても「直接行動」といえば、「代行主義」を拒否し、民衆自身が自らの具体的な身体をもってさまざまな発信していく行為、民主主義の原点にあるべき態度としてまずは価値づけられるのではなからうか。けれども、直接行動を一義的に規定することは不可能だ。その個々の現れ、それぞれのもつ具体性は限りなく多様で、おそらく一人ひとりが結ぶ像も異なり、ときに現場におけるコンフリクトをも

生む。

巻頭の文章で编者たちは、直接行動をめぐって「運動への支持を少しでも広げるためとはいえ、活動の遵法性を強調し、その方法やスタイルを限定する傾向」が、運動圏においても少なからず見られる、と指摘する。「たとえば、警察と揉めずにデモや抗議を行うことを最優先し、不当なものであっても権力の指示に従うことを参加者に求める主催者の姿勢に、それが確認できる」と。编者は、それが「逮捕・弾圧のリスクを減らし、運動参加のハードルを『下げる』場を作り、二〇一〇年代以降の社会運動の広がりを生み出したことは間違いない」と理解する。けれども同時に「社会運動を法的な枠組みのみで捉えることは、直接行動のもつ力、つまり、私たちが本来もちえている力を縮減させてしまうことになる」という危惧も示す。

運動現場で生じているリアルな状況を練り込んだ上で、それが果たしてしまっている問題をも見逃さない。あるべき「直接行動」の範囲を線引きして、外から評価するような姿勢とは真逆の、このような编者のスタンスに、私も十分共感する。

本書の構成は、编者3人に阿部小涼・酒井隆史を交えた総括的な座談会をはじめ、市橋秀夫・松井隆志の論稿、小泉英政、松

本麻里のインタビューと、おそらく特集外のインタビュアー2本（飛田雄一、鎗山善理子）からなっている。そのほとんどが、「直接行動」の経験が切り開いてきたものを、可能性の相において記述している文章だが、東アジア反日武装戦線について論じた松井論文は、運動の中には「暴力」に目をむけ、ある種の直接行動が歴史的に持つてしまった負性を正面に据えている点で異色である（当初、特集テーマを「暴力」としようという案もあったそうだが）。運動の中にあつた暴力について、他の論者も決して無視しているわけではないが、主要なテーマとして論じられていないわけではない。「暴力」の線引きは確かに微妙である。だが、東アジア反日武装戦線の場合、必ずしも意図したわけでもなく、発生してしまつた多数の死傷者の存在に松井は基準を据えている。直接行動が多様であるにもかかわらず、（だからこそ）峻別されなければならぬものはあるのだ。そして、その一線を、運動の外に放逐して済ませてしまふのではなく、「直接行動」の経験の中に歴史的に位置づけていくこと、このことも「直接行動の想像力」を豊かにするためには必要なことなのだ。

北野誉（きたの・ほまれ）／救援連絡センター運営委員



## 『ワクチン開発と戦争犯罪 インドネシア破傷風事件の真相』

倉沢愛子・松村高夫著

岩波書店、2530円税込

### 曝かれた七三一部隊の深い闇

2020年の春、欧米で新型コロナウイルスの感染者が爆発的に増えて、日本でも第一波とよばれた3月、東京都台東区の永寿総合病院で、最初の大きな感染クラスターが見つかった。地域医療の中心でベッド数400以上だったが、入院患者109人・職員83人が感染、内患者43人が亡くなった。

この永寿総合病院を調べていくと、関東軍防疫給水部七三一部隊の残党たちが作った病院であった。七三一部隊幹部の隊友会名簿に、初代院長と事務長など三人が

永寿病院勤務と記していた。このことを評者は『パンデミックの政治学』（花伝社）に記し、かの「文春砲」も日本の感染症医学のスキヤンダルとして報じた。

初代院長の倉内喜久雄が、七三一部隊大連支部の細菌科長で、隊員用ベスト・ワクチンの開発者だった。戦線が拡大すると、倉内は関東軍七三一部隊から南方軍防疫給水部に派遣され、ジャワ島のパスツール研究所長になった。そこで破傷風ワクチンの開発・人体実験を行ない、1944年8月、クレンデル収容所に徴発されたインドネシア人「ロームシャ」多数の犠牲者を出した。冤罪で責任者とされ処刑されたインドネシア人医師の名をとり「モホタル事件」という。このことは、慶応大学の倉沢愛子・松村高夫両教授の研究で明らかにになり、2021年夏のNHK・BSスペシャル「感染症に斃れた日本軍兵士」で大きく報じられた。

本書、倉沢愛子・松村高夫『ワクチン開発と戦争犯罪——インドネシア破傷風事件の真相』（岩波書店）は、インドネシア現代史研究の倉沢教授と、長く七三一部隊を追いかけてきた松村教授の共同研究の成果で、NHKスペシャルのもとになった史実を学術的に裏付けた決定版である。日本軍は細菌戦用のワクチン開発、破傷風菌の人

体実験による被害を隠蔽し、現地の医師たちの反日陰謀であるとでっちあげ、戦後も長く真相は不明だった。パスツール研究所長倉内喜久雄が責任者のひとりであり、そうした「感染症医学」が戦後のワクチン開発に継承されたことも述べられている。

本書によって、石井四郎率いる関東軍防疫給水部の細菌戦・人体実験、優生学的「大東亜医学」が、同時に設立された関東軍軍馬防疫廠一〇〇部隊ばかりでなく、戦域拡大にともなって北支那・中支那・南支那派遣軍から南方軍防疫給水部まで広がったことが実証された。内藤良一率いる東京の陸軍軍医学校防疫研究室が司令塔であった。

倉内喜久雄ら、関係した医学者・医師たちは、米国占領軍への資料提供とパートナーで免罪され、戦後日本の感染症対策やワクチン開発のネットワークでつながっていた。帝銀事件で画家平沢貞通に名刺を渡し平沢冤罪の一因となった厚生省役人松井蔚は、戦時のパスツール研究所の幹部の一人で、「土人の殺害」として破傷風事件を知っていたことも明らかになった。日本における生物化学兵器開発の歴史は、まだまだ底知れない闇を孕んでいるのである。

加藤哲郎（かとう・てつろう／一橋大学名誉教授）

## 大衆天皇帝の「崩壊」

天野 恵一



イラスト：ほしのめぐみ

——天野さん、大変な事態で、友人の私たちは、どういふ言葉をかけていいのか、ほんとうに戸惑っています。8月15日の行動の翌日、長く糖尿病の患者だった天野さんがつまずいて倒れた、頭の手術だと連絡されました。手術は成功したが、歩けなくなつて入院生活。ところが退院を目前に、長く癌の闘病中であつたお連れ合いが入院、亡くなつてしまいました。体の不自由な天野さんは、現在一人の生活。この連載も2回お休み。

ただ、「大衆天皇帝」として、戦後憲法下に定着した象徴天皇帝について、あれこれ論じてきたけど、キチンと決定的に整理して論ずるといふ課題が積み残しになつている。「とりあえずこのテーマを連載のラストとして、それだけは果たしたい」といふ、本人の強い希望で、息も絶え絶えの天野さんに事務所まで足を運んでいただきました。

天野さんの連載は、読者からの反響も多く、大変好評なものですから、今回でラストにするか否かはともかく、ご希望通りに話していただきます。

「真子」さんの皇室脱出劇をめぐる起つた、皇室スキャンダルが大衆天皇帝の終わりを示しているという主張に、天野さんは賛同できないと主張していました。そこらへんの問題から入りますが。

天野 ハイ、『秋篠宮家と小室家』という文藝春秋社編の新書(2022年)に収められている御厨貴と林真理子の対談(『大衆天皇帝』の崩壊の先にあるもの)で、御厨はこう主張しています。

「私はね、大衆の人気こそが戦後皇室を支えてきた歴史を振り返ると、この数字には隔世の感を禁じ得ません。皇族の結婚を『祝福した』という声が四割に届かないというのは考えられない」。

松下圭一が分析した大衆天皇帝が「崩壊」しつつあるというのが、二人の対談者の前提的な認識ですね。

——天野さん、以前に、「天皇即位20年奉祝に異議あり! えくかげんにせよ共同行動」のニュースの4号(2009年8月)に、『大衆天皇帝』の成立と『終わり(?)』という論文を書いていますね。そこでの批判の対象は吉見俊哉の「大衆天皇帝の終わり——ミッチー・ブーム以後の半世紀」(『中央公論』2009年4月号)ですね。その結論の言葉は以下の通りです。

「しかし、マスメディアの政治的アクターとして皇室の人々は、より個性的な発言を展開しだしている。

『大衆天皇帝』の何が終わり、何が連続し強化されているのか、イージーに『終わり』を宣言するのはなく、この点をもつとキチンと分析すべきだと思ふ。／松下の大衆天皇帝の成立が「神権天皇帝」の『終わり』を意味するという分析視角は、彼のすぐれた『大衆天皇帝』論にもかかわらず、決定的読み間違いのポイントであつたという、今日から考えればよく分かる問題をも、想起してみるべきだろう」。

天野さんのいう、「大衆天皇帝」と「神権天皇帝」の二重構造という評価の問題ですね。

天野 そうです。天皇(皇族)を絶対神聖視しているのは「右翼」だけじゃないでしょう、大衆天皇帝を持ち上げている林真理子だって、御厨貴の発言にだつて、「絶対神聖」視は前提ですよ、大衆的スターのごとき「人気」と「神聖」視は、彼や彼女の中では矛盾していないんですよ。

——それなりにわかりますが、神聖主義の右翼は大衆天皇(マスコミ)に開かれた天皇・皇族に反対なんですよ。

天野 そうです。「開かれた」俗人と同じになれば「神聖」さは、必然的に薄れますからね。スターにスキャンダルはつきものでしょう。人々は憧れ対象から気楽にスキャンダルにも飛びつくんですよ。

もはや「不敬罪」や「治安維持法」がある時代では、ないんですから。

私に言わせれば、この間のスキヤンダル騒ぎは、大衆天皇制の必然的な産物なんですよ。だから、皇室非難のスキヤンダルは、「マコ」以前からいっぱいあるじゃないですか。彼女が失調症に追い込まれた「美智子バッシング」だって「ミッチー・ブーム」が作り出したものの必然的産物なんですよ。「大衆天皇制」（人間天皇制・マスコミに開かれた象徴）の必然的産物として、皇室スキヤンダルは生まれてきているのですよ。「終わり」でも「崩壊」でもなく。

この点を強調しておきたい。男の子が産めない「雅子」バッシングだって、あれだけ大騒ぎだったじゃないですか。

——『雅子の真実』（国家と儀礼研究会編・社会評論社・1993年）と『美智子の逆襲』（反天皇制運動連絡会編・社会評論社・1994年）の2冊、



このスキヤンダル騒ぎの年表付きの2冊は、かつて読んでくるように言われていたので、とっても楽しく、読ませていただきました。

なんか、天野さんたちの運動、こういうユーモアのセンスが、この間に欠落してしまったんじゃない（笑）？

天野 ウン、どうすりゃいいんだろウネ、いい助言ください。

——私なんか助言できるわけじゃない（笑）

天野さん、思ったより元氣そうだから、この問題の延長線上で、もう一つのテーマについて聞いてもいい？

天野 本当のところ、カラ元氣なんだけど、どうぞ。

——『天皇制と共和制の狭間で』（第三書館・2018年）という明仁天皇の「生前退位」の大騒ぎが始まった時に出された本の中に、天野さん、「性生



活が、天皇制にとっては『国家的公務』であるという論文を書いているじゃない。たくさんの人の論文を集めた、あの本の中で。そこで、この状況批判の中で、天皇制は（超特権的奴隷制）であるという概念を、ひねり出した、と書いているじゃない。この（超特権的奴隷制）という概念と、ここで問題にしてきた大衆天皇制論はどう関係しているの、そこを教えて。

天野 ハイ、あの状況下で、奥平康弘さんの『萬世一系』の研究——「皇室典範的」なるものへの視座（岩波書店・2005年）の中の主張が、マスコミでも大きく取り上げられました。松下さんの「大衆天皇制論」同様、

天皇制批判という毒（原則視座）を抜きとった、インチキな紹介、一般的な「退位」肯定論として、憲法学者の先駆的アキヒト天皇賛歌として紹介され続けました。腹が立ちました。そこで、あらためて、それをキチンと読み直したんです。そのことを通して、奥平さんの主張は、皇室身分（超特権を保持したまま）の「退位」肯定論なんかではなく、巨額の国家予算で生活する、サマサマづけの特権身分を自分から捨てようと、天皇・皇族が決意することへの期待（そのことを通して、天皇制が消滅してしま

うことが望ましい）の表明であること

いう点を、ハッキリさせたいと、アレコレ論じたものでした。その作業の中で、奥平学説は、天皇制を実は〈超特権的奴隸制〉と位置付けていると、理解すべきだと、考えていたのです。

——憲法14条には、「すべての国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的關係において、差別されない。／華族、その他の貴族の制度は、これを認めない」とあるわけですからね。

**天野** もちろん、それは前提だけど、1章で象徴天皇制を規定してしまっている、自己矛盾した憲法でしょう。この矛盾を解消していく、憲法内在的根拠を奥平さんは、第18条の「奴隸的拘束及び苦役からの自由」に読み込んだんですよ。

「何人も、いかなる奴隸的拘束も受けない。又、犯罪に因る処罰の場合を除いては、その意に反する苦役に服させられない」、これですね。これを根拠に自発的脱出を正当としたわけだから。

——ああ、それで「奴隸制」という理解が前提とされている、というわけね。

**天野** そうです。だって、「人権」をまるごと取り上げられる代わりに手にしているウルトラな「特権」でしょう。「人間」扱いされてなくてお気の毒というだけじゃなくて、あなた方は自発的にやめようと思えばやめ

られますよ、憲法はそれを保障してますよ、という解釈（主張）です。

このことをハッキリさせたくて、ひねり出した概念です。

——それなりに、わかりました。

**天野** 親とか家の意思で、結婚相手が決められるのではなく、本人（自分）たちだけで決められるという、戦後民法の規定の外に、天皇・皇族はいるんですよ。今回の「マコ」（秋篠宮）スキヤンダルは、その事をハッキリと視えやすくしただけでしょう。

戦前の公然たる神権天皇制の時代には、視えにくかった（庶民も家（親）の意思にしばられていた時代にはハッキリしなかった）矛盾が、「大衆（人間）天皇制」の時代になって公然化しただけですよ。裏に「神権」をかかえた「人間」天皇制の自己矛盾の露呈というふうに理解すべきだと思います。

——かなり整理して理解できるようになりました。まだ、スッキリしない点は残りますが。

**天野** 当然です。私自身も、もう少し、詰めなければならぬと思つてますから（笑）。

——事実と異なる報道に、自分たちが反論できるように「一定の基準」がつくられる必要があるという秋篠宮発言を受けて、宮内庁は去年の4月1日に、室長に警察庁長官官房付の女性（藤原麻衣子）をすえた「広報室」を作ったけど。思うように機能し

てないみたいね。

**天野** 当然でしょう。ハデに動いて、ネットのバッシング言論なんかに取り締まりに介入したら、「大衆（マスコミ）に開かれた天皇制」では本当になくなってしまふ。

フルに機能させるわけにはいかないし、いろいろなバッシング言論に「一定の基準」を客観的にキチンと示すことなんて、できないでしょう。

象徴天皇制という制度が本質的にかかえこんでいる矛盾なんだから、解消なんてしようもないでしょう。これが私の結論です。この矛盾が露出させる問題に、積極的に介入していく批判（反天皇制運動）が、もっと、もっと必要だと思えます。

——ハイ、本当におつかれさま。今日は、ここまでにしましょうね。

（あまの・やすかず／本誌編集委員）



—— 国定教科書で拡散された「軍国美談」 ——  
—— 文部科学省もホラ話を拡散 ——

高嶋 伸欣

国定教科書といえば、小学生に「ウソを本当のように教え込んだ教科書」というイメージが定着している。けれども、それがどのようなウソだったのか、忘れられつつある。今回は今でも時に話題になる著名な事例を幾つか紹介し、それらが教科書に掲載されるに至った背景などを掘り下げて行く。さらに、作り話を本当の話とした道徳副教材を文部科学省が制作し、全国の小学校に使用を迫った、数年前の事実を紹介する。

なお、念のために付言しておく。理科や算数などの教科書では、事実の歪曲はあまりされていない。明治以後の富国強兵、殖産興業の国策下で、近代的な鉱工業の振興と軍備の充実のため、正確な知識や技術の開発が優先されていた。

その一方で、第一期国定教科書（1907年度）の時から、「軍国美談」が登場している。「高等小学読本」の「感心な母」は、後に「水兵の母」に改題され、最後の第五期まで続けて掲載された。

内容は、日清戦争中の軍艦高千穂の艦上

で、ある大尉が女手の手紙を読んで泣いている水兵をみかけ、女々しいと厳しくとがめたところから始まる。だがそれは、後顧の憂いなく武運に励むことを期待しているのに、手柄を何も立てていないのは情けないと、叱責する母からの手紙だった。大尉が誤解を謝罪し、逆に励ましたことで、水兵は凛々しく立ち直る。

この物語の原作は、後に海軍中将となる小笠原長生が軍艦高千穂で勤務していた時の体験記であることが判明している。原作と比較してみると、後の「軍国美談」ほどの歪曲や脚色は見当たらない。ただし「一命を捨てて、君のご恩に報いよ」との句が繰り返され、忠君愛国の精神を強調している点で一貫している。

露骨に歪曲された「軍国美談」が数多く登場するのは第五期国定教科書だが、それ以前の第三期国定教科書の『国語読本七』の「一太郎やあい」は、実話と大幅に異なる内容のものだった。「実際に起こったことは、一人の母が応召する息子の見送りに間一髪で間に合わず、夢中で息子の名を呼

んだ——ただそれだけだった」それが「軍国美談」に仕立てあげられたのだ。モデルとなった出来事について香川県多度津町（当時）で取材した川奈紀美氏（朝日新聞記者）は、夢中で息子の名を呼ぶ場面を偶然目撃した人物に行き会い、真相を知る。そして、その逸話を「軍国美談」に仕立て挙げていく過程も掘り起こしている。加えて、これが大正デモクラシー期の教科書であったと指摘している。大正期も軍国主義の底流に揺らぎはなかったことに気付かせてくれる取材記は、一読を勧めたい（同氏著『女も戦争を担った』冬樹社、1982年）。

## 「肉弾三勇士」

やがて、1937年の盧溝橋事件以後、中国侵略が本格化し、挙国一致体制の強化が進む。学校は1941年度から改組された。尋常小学校が国民学校初等科（6年制）に、高等小学校が国民学校高等科（2年制）に変わり、教科は国民科に修身・国語・歴史・地理がまとめられ、生徒たちは「少年民」と呼ばれた。改組の趣旨は、教育勅語の理念に則した国家主義的色彩を鮮明化することだった。

第五期国定教科書（1941年度）では改組の趣旨に合わせ、修身科や国語科の教科書に事実を歪曲した「軍国美談」が数多く

登場させた。

その中の典型的な事例の一つが、「三勇士」だった(初等科国語二)。第一次上海事変(1932年)で、中国側陣地の前面に張り巡らされた鉄条網を爆破し、突入路を開こうとした作戦で犠牲になった3人の実話に基づいている。

筒状の爆薬を3人が小脇にかかえて敵前に飛び出し、鉄条網の下に差し込む危険な作戦で、3人は被弾しながら破壊筒(爆弾筒)の差し込み成功する。その直後に筒が爆発し、3人は爆死。けれども突入路が開け、敵陣の制圧に成功する。

一方、同時に飛び出したもう一組の3人も筒の差し込み成功し、爆発の前に自陣に無事に戻っている。また爆死した組の導火線は半分の長さしかなく、導火線を装着した上官が犯したミスだった、という田中隆吉陸軍少佐(当時、上海日本公使館付き武官補佐官)の証言もある(東京12チャンネル報道部編『証言・私の昭和史』学芸書林、1969年)。

これらの事実を無視し、『大阪朝日』は3人の戦死の初報で次のように強調した。「上海特電」自己の身体に点火せる爆弾を結び付け身をもって深き四メートルにわたる鉄条網中に投じ、自己もろ共にこれを粉碎して勇壮なる爆死を遂げ、歩兵の突撃路を開いた三名の勇士がある」その勇士は

左の通りである」と(『大阪朝日』1932年2月24日)。

この記事を契機に3人を英雄視する「爆弾三勇士」「肉弾三勇士」報道の大洪水が日本中を覆う。新聞雑誌、ラジオ、映画、講談、演劇各界(歌舞伎も)などが「昭和の軍神」などところぞって称賛した。

ただしそれ等の多くは「軍国主義は儲かる」という打算を伴うものであった。同時に、軍部は従軍記者の功名心と新聞社間の競争を巧妙に操ることで、世間の風向きを操作する術を習得し、敗戦まで活用していくことになる。こうなると、教科書編纂の場では、真実に基づいた内容にする余地はなく、「三勇士」掲載は不可避だった。

### 軍神「広瀬中佐」

これには前例があった。同様の経過を経て第四期国定教科書(1933年度)に登場した「広瀬中佐」(尋常小学国語読本八)がそれだ。内容は、日露戦争中の1904年3月27日に強行された旅順港閉塞作戦で、戦死した廣瀬武夫少佐(戦死直後、中佐に昇進)を軍神として賛美したものだった。

た。彼は、自沈させる船から脱出する際に、

出遅れた杉野孫七兵曹長を探して、繰り返し沈みかけの船中を回り、最後にボートに移った直後、運悪く敵弾を後頭部に受けて海に転落。即死した。

作戦は広瀬少佐と杉野兵曹長など4人が



十七 廣瀬中佐

十七 廣瀬中佐

八十六

どどろくつつ音、

飛び来る弾丸。

荒波あらふ、

デッキの上に、

やみを貫ぬく 中佐の叫び、

杉野はいづこ、杉野はあすや。

船内くまなく

たづぬる三たび、

呼べど答へず、

さがせど見えず。

船はしだいに 波間に沈み

敵弾いよいよ あたりにしげし。

昭和十七年七月四日印刷  
昭和十七年七月九日発行  
昭和十七年八月二十五日再刷  
昭和十七年八月二十五日再刷  
初等科国語 四  
◎ 定価 金 貳 拾 銭  
文部省  
昭和十七年七月四日印刷  
昭和十七年七月九日発行  
昭和十七年八月二十五日再刷  
昭和十七年八月二十五日再刷  
初等科国語 四  
◎ 定価 金 貳 拾 銭  
文部省

戦死し、港口の閉塞は失敗で終わった。だが海軍はすかさず3月29日付「官報」に閉塞作戦の詳細を掲載し、それに「軍神廣瀨武夫の壮烈の最後」との見出しを付した（『新聞集成明治編成史12巻』1924年）。死をもって部下思いを貫いた廣瀨を称えることで、作戦の失敗に関心が向くのを回避させた、海軍や政府の思惑は的中する。翌日後、新聞各紙には「軍神廣瀨中佐」の6文字が連日登場し、軍神第1号の名は日本中に定着した。

「廣瀨中佐」の軍歌が3種作られ、さらには「轟く砲音 飛び来る弾丸」で始まる文部省唱歌（作者不詳）が、教科書『新訂尋常小学唱歌 第四学年』（1912年）から登場している。大人向けには、伊丹季子の浪曲「杉野兵曹長の妻」が一世を風靡した。やがて、廣瀨中佐の銅像が国内3カ所に建てられ、東京の万世橋駅（当時）前のそれでは、高い台座の基部に廣瀨の像を仰ぎ見る杉野兵曹長の像も据えられていた。第五期の『初等科国語八』（四年生）に引き継がれた「廣瀨中佐」は、銅像写真と文部省唱歌の歌詞全文を組み合わせた、簡潔な構成だった。道徳を諭されることもなく、ごく自然な感性で敬いの気持ちにさせられる。廣瀨中佐の名は抵抗なく少国民の記憶として浸透していった。国定教科書の「広

瀨中佐」は、その後に相次ぐ「軍神」PRの露払い役を演じていた。

しかもそれだけではない。実は、杉野孫七は自沈火薬が爆発した衝撃で海に落ち、泳ぎ疲れていたところを、ロシア側に救助され捕虜となっていたのだった。やがて戦争は終結。杉野も釈放されるが、その消息は徹底して伏せられ、現在でも公式には認知されていない。ただし、本人がその後も健在であったことから、生存説は、様々に流布されている。

毎日新聞社発行の『別冊一億人の昭和史 日本植民地史2 満州』（1978年）には「戦死したと思われた杉野兵曹長は、のちにロシア軍の捕虜となり、生きていたことがわかった」と明記されている。さらに東京神田の商店街の季刊PR誌『かんだ』97号（1980年3月）には、「杉野兵曹長が実は生きていた！」とする面会体験談が載っている。そこから、その後の杉野の様子が見とれる。

こうしてみると、日本政府・海軍は捕虜名簿交換などで、戦時中に杉野の生存を把握していたと考えられる。けれどもすでに日本中が「廣瀨中佐」神話で沸き立っていた。そこで、軍部は真実を隠蔽し、軍神神話の拡散を優先したのだった。

かくして、これ以後の英雄的行為の軍人

についても、事実の歪曲を常習とした「軍神」像が、軍部と新聞・ラジオなどにより、次々と世間に送り出されることになる。

## 「柿右衛門」と「江戸しぐさ」

国定教科書のウソは軍国美談に限らない。教育勅語の徳目に則した話題でも、実話を作り話に変えていた。「柿の色」（第五期、初等国語六）では、話が正反対に改変されている。内容は、佐賀の有田焼（伊万里焼）の特色とされる赤絵付けに成功した、柿右衛門の努力と忍耐の物語だ。初登場は第三期中の1922年度版『尋常小学国語十』で、タイトルは「陶工柿右衛門」だった。それらによれば、彼は庭に立つ柿の木を見上げ、夕日を浴びて輝く実の珊瑚珠のような赤色に魅かれ、その焼き付けを思い立つ。やがて一人苦難の後にやり遂げ、国内外に名を成したという。

だが実在の初代柿右衛門による赤絵付けの成功は、彼一人の自力の努力の結果ではない。NHK編『歴史ドキュメント⑥』（日本放送出版会、1987年）によれば、酒井田柿右衛門家には初代が記した古文書「覚」が伝わっている。そこには次のようにある。「赤絵は伊万里の東嶋徳左衛門が、長崎で『志いくわん（四官）』という唐人から伝授されたのがはじまりである。礼銀は十枚





用心 しんぞ	念入れ ねんいれ	差し延べ さしえべ
子供は、人ごみの中では大人 のそばをはなれないようにし ます。	火の消し忘れや、忘れ物など がないかしっかり確認すると いう心づもりです。	だれかが困っていたら、それ がたとえ知らない人であっても も声をかけ、手を差し延べま す。

他にもこんなしぐさがあります。

「江戸しぐさ」はこうして生まれたのでしょうか

江戸時代、江戸の町には、全国から文化や習  
俗のちがった人が集まってきました。  
そのため様々な人々がおたがいに仲良く  
平和に暮らしていけるようになり、大きな店の商  
人たちは、当時「商人しぐさ」と呼ばれていた  
ものを広めていこうとしました。「商人しぐ  
さ」は例えばお天道様に申しあげたいことは  
ないよとか「おかげで」との考えを元にしたし  
た商売の心得を態度に表したものです。  
この「商人しぐさ」が江戸しぐさと呼ばれる  
ようになった。

このように、江戸の人々は、お天道様にはす  
かしなくよく行動するとことや、人のおかげ  
で物事が成り立っていると考えることを通  
して、真心をもて人間関係を大切にしよう  
としていたことがわかります。

**江戸しぐさの学習**

三百年もの長い間、平和が続いた江戸時代に、江戸しぐさは生まれました。  
江戸しぐさには、人がたがいに気持ち良く暮らしていくための知恵がこめられています。

**かた引**  
せまい道で人とすれちが  
うときのしぐさです。おた  
がいに右のかたを後ろにい  
いて、相手にぶつからない  
ようにします。

**かさかしば**  
かさをさした人同士が、  
すれちがうときのしぐさで  
す。相手をぬらさないよう  
に、たがいのかさをかたむ  
けます。

**かた引**  
せまい道で人とすれちが  
うときのしぐさです。おた  
がいに右のかたを後ろにい  
いて、相手にぶつからない  
ようにします。

**こぶしうかせ**  
複数の人が一緒にする  
ときのしぐさです。一人で  
も多くの人がすわれるよう  
に、みんながすかずすし  
を上げて、場所を作ります。

**おつとめはんばい**  
人が見ているから良いこ  
とをするのではなく、だれ  
も見えていなくても、だれ  
のためになることをする心  
構えのことです。

私たちの道徳 小学校5・6年

平成26年6月発行 発行者 文部科学省  
著作権所有 100-8859 東京都千代田区霞が関3丁目2番2号

れ、イラストでは縁台の様子を描いている。ゆつくりくつろぐ縁台で、わざわざ窮屈になる「こぶしうかせ」はこじつけでしかない。

「江戸しぐさ」は企業向けのマナー研修

などで講師をしていた芝三光氏が1970年代に提唱し始めたのを、越川禮子氏らが引き継いで広めたのだとされている(原田実著『オカルト化する日本の教育——江戸しぐさと親学にひそむナシヨナリズム』ちくま新書、2018年)。原田氏は「江戸しぐさ」をホラ同然と批判している。詳細については同氏の著作にゆだね、ここでは明治維新以後「江戸しぐさ」が途絶えた理由を検証しておく。

明治の新政政府は江戸カラの徹底した払拭に傾注したので、江戸の町民は地方に身を潜めたところを、「一部の官軍が目の色変えて追い回し」「隠れ江戸っ子狩り」は嵐のように吹き荒れ、「こ」とに女、子供が狙われたという。私たちの目にはふれないが「著名な虐殺事件に「匹敵するほどの血が流された」と、越川氏が著書『江戸の繁栄しぐさ』(日本経済新聞社

文庫、1999年)で、語っている。

この解説だけで、「江戸しぐさ」が荒唐無稽の作り話であることは明らか、と言えらる。だが文科省は副教材に「江戸しぐさ」を掲載した責任を認めていない。『東京新聞』の2015年4月6日朝刊「こちら特報部」の特集記事では「江戸しぐさが歴史的な事実だとは言っていない(教育課程課長補佐)」などと見え透いたウソの弁解をしている。他方で原田氏は、『読売新聞』を筆頭に多くのメディアがしきりに推奨していたことを、根拠に挙げている。この点でメディアの側にも責任がある。

それは、「軍国美談」の場合と同様に、マスコミの無責任で歪んだ過熱報道が先行した場合、教育内容にもその歪みが及ぶことを意味している。今も政府によるウソの教育が巧妙に継承されている。健全なジャーナリズムの確立、それに情報開示と共有による権力監視の主権者意識の定着。その必要性を国定教科書の歴史が示している。

(たかしま・のぶよし)「教科書・市民フォーラム」共同代表、琉球大学名誉教授

越川氏が著書『江戸の繁栄しぐさ』(日本経済新聞社

## 〈よその〉目線の広島⑪

# 変わらないガザの状況・ 変わる運動のかたち

田浪 亜央江

一月も末に近づいた今日の広島市内は、雪だ。国内ニュースでは日本海側の大雪、とくに能登半島の被災地での降雪状況に注目が集まっている。基幹道路が寸断され支援の遅れが指摘されるなか、この寒い季節、「20日間風呂に入れなかった」という現地

のメッセージには、「私たちは毎日死んでいる」とあった。周囲で死んでいく人々と、今はまだ生きている自分自身とを区別してないその言葉に対して、何も返事が出来ないまま二週間が過ぎた。

朝からずっと大学の建物の中にいたから、いったんやんでいた雪がまたいつ降り出したのか、分からない。今日は原爆ドーム前に向かうつもりはなかったが、雪を見て気が変わった。慌てて帰る用意をして駐車場に向かったものの、まずは車の雪かきが必要だ。通りがかりの人がわざわざマスクを取って挨拶してくれたが、暗いし雪で視界が遮られているし、何より慌てているので相手が誰かも分からないまま、「どうもどうも！」とごまかす。今日は「当番」ではないから遅れてもいいのだが、こんなことをしては終わってしまう。しかし降雪中の走行に焦りは禁物だ。雪の降るな

日本のように、「普通の」市民社会であっても、災害が起き日常生活が止まればこの惨状なのだ。17年間封鎖されてきた上にジェノサイドが進行するガザの状況は、もう想像を絶する。能登の状況に胸を痛めるそのベクトル上に、ガザへの目線も存在して欲しい。最後にもらったガザの知り合い

かを立てている人たちのことが心配で出て来たのだから、私が事故を起こすわけにはいかない。走り出すとフロントガラスに雪が吹きつけられて、前方は真っ白である。去年の失敗に懲りて、今年は早めに冬用タイヤに取り換えたものの、下り坂のカーブには冷や冷やする。

半に着くつもりはなかったが、すでに18時過ぎだ。ガザの事態を受け、原爆ドーム前で毎日「ビジル（追悼の夕べ）」としてのスタンディングが始まって100日あまり。たとえ一人でもとにかく続けようと、穴が出ないように当番を決め、キャンドルとステッカーを持ち寄って立っている。雪の日の今日もやっているのは間違いないが、早めに終わっている可能性はある。誰もいなければ少し拍子抜けするにせよ、今日の参加者が無理せず現実的な判断をしたのだと思えば、ほっとできる。……と言いつつながら車を停めて数歩歩くと、前方の地面にほんのり、キャンドルの光が浮かんでいる。歩を早めて近づけば何と、いつもよりも賑やかなくらいではないか。「来る予定じゃなかったんだけど、気になってー！」と大幅に遅い登場をごまかしながら、持参したキャンドルにスイッチを入れて地面に置く。警備員がうるさいので、本物の火を使うキャンドルから、キャンドル型のLEDライトに早い段階で切り替えたのだ。もともと、キャンドルアピールなんて私の本来の趣味ではなかったのだが、そんなことは言っていられないと思つて続けていたら、もうどうでも良くなつてしまった。

そうだ、うっかり忘れかけていたが今日はレベッカが昼間、「伊藤忠」前でのアク

ションを呼びかけていた。彼女の呼びかけで集まった若い人たちが伊藤忠前で行動をして、歩いて原爆ドーム前まで来て、そのまま夕方からのビジルに合流したようだ。イスラエルの武器企業と契約を結んだ伊藤忠への抗議運動は全国的に盛り上がった。だが、広島にも支社があつて行動のターゲットになっている。レベッカは私の勤務先の大学の院でアートを専攻する留学生で、ガザでの事態を受けた広島での運動の中心的存在だ。

ほんやりと立っているとNさんがニコニコと近づいて来て、カイロを手渡してくれる。誰かが私の傘を見て「かわいい柄ですねー」と言う。傘をさしているのは私一人だと気が付き、不格好だがジャケットのフードを頭に載せて傘を閉じた。「オニオンスूपとジンジャーティー、どちらがいいですか」と、またNさんだ。恐縮しながらもジンジャーのほうを頂く。わざわざ二つもポットを持参し紙コップに注いでくれて、しばらくたつとカップの回収までして下さる、すばらしい几帳面さ。彼女は私とほぼ同世代だが、私にはとてもこういうマメなことは出来ない。

伊藤忠の前では、あらかじめ録音したナレーションをマイクで流しながら、チラシを撒いたり、イスラエル軍によって殺され

た幼児を模した人形を並べるパフォーマンスをしたようだ。この日のアクションを見ることは出来なかったが、アートや音楽に関わっている若い人たちのセンスだから、強い調子でありながら通りがかりの人を誘い込むスタイリッシュな表現方法に落とし込まれている。「歴史的なこととか、よくわかってないんですけど」などと言いながら、「でも起きていることが許せないのは確か」という思いから集まる若い人たちの行動の早さや自発性に感心することばかりだ。

レベッカ自身はアメリカの反シオニズムとパレスチナ人との連帯を掲げる Jewish Voice for Peace (平和のためのユダヤの声) のメンバーである。10月以降の広島の運動が現在のように広がったことについては、彼女の存在は大きい。まったく、今から思うと夢のようだ。ガザの事態への応答として運動を広げることについては、私はまず既成の市民運動や、名前の通っている人たちに声を掛けることしか考えて来なかった。ガザの事態があまりにも深刻で異常だということを反映してそれなりに手ごたえはあったが、私には広島の市民運動の問題点ばかりが目についた。しかしレベッカは、私が接点を持たない人たちに声を掛けるだけでなく、センスの違う人たちとも上手にコミュニケーションを取りながら気持ちよ

く運動を広げている。

「歴史的なこととか、よくわかってない」若い人たちはネットで情報を得ながら進めていくから、ときどき危うい話も出るのだが、こちらが介入するよりも早く、軌道修正されることが多い。何しろ動きが早く、情報量も発言する人も多いから、情報の危うさに気が付いて反証を探し出す人が必ずいる。私のように一応パレスチナに長く関わりながら、今の若者主体の運動に伴走している他地域在住の知人たちと話すとき、だいたい似たような感想が出てくるのも面白い。つまり、「大丈夫、若い人たちに任せておけ」ということだ。

私はパレスチナ以外の地域との連帯運動については無知だから、パレスチナと関わる運動の特権的にとらえるつもりはない。だが、運動の高齢化やマンネリ・先細りが目立つなか、パレスチナを軸とする運動については今のところ、活力と多様性が生み出されているのは間違いないと思う。それは日本社会の力ではなく、パレスチナ社会の力の反映だと思う。今まさにイスラエルによって殺され続けているなか、パレスチナは世界中に力を拡散させることに希望を託すしかないのだ。今いる場所で、その声を聴き続けたいと思う。

(たなみ・あおえ／中東地域研究)



## 事務局だより

岸田大軍拡を

止めよう

私からはおよそ1年ぶりに、市民の意見事務局便りをみなさんにお届けすることになりました。みなさまお元気で過ごしていただいでしょうか。

2024年は元旦早々から能登大地震の深刻な被害が発生するという大変な事態に見舞われました。現在に至るも電気、水も通らず孤立している地域がいくつもあり、行方不明者もまだ見つかっていません。ウクライナではロシア軍による執拗で激しい戦争が続いており、パレスチナ、ガザ地域でのイスラエル国家、軍による住民虐殺はとどまる気配がありません。

昨年は人類史上もっとも熱い気温を記録し「地球沸騰化の時代」(ゲテールス国連事務総長)を世界中の人が実感することになりました。

1日も早くウクライナからロシア軍を撤退させ、イスラエルによるパレスチナでの住民虐殺、占領、追放を終わらせること、これは世界の圧倒的多数の人々が望んでいることではないでしょうか。

にもかかわらず、軍勢力と政治的抑圧体

制を維持する一部の国家、軍事産業によって世界の平和が脅かされています。

昨年12月に行なわれた脱炭素社会を実現し、気候危機対策を話し合うべきCOP26は化石燃料と原発延命の場に終始しました。

こうした大災害、気候危機と戦争、虐殺を目の前にして日本の政府や企業は一体何をしているのでしょうか。

あろうことか日本政府は武器のライセンス生産を閣議決定し、伊藤忠商事はイスラエルの武器生産の大半を担う軍需産業との提携に踏み出しつつあります。

沖縄では国が沖縄県民の意思をことごとく無視して辺野古大浦湾の埋め立ての強制代執行を強行しました。

平和への希望はどこにあるのか、見出せるのか。課題は山積みですが、選挙であれ直接行動であれ自分にやれること、置かれた立場でぼちぼちやっていきましょう。

この場を借りて言うのもなんですが、昨年11月私のかかわる立川市の生活困窮者支援のさんきゅうハウスまで千葉県市川市から自ら車で高速道路を運転し、2時間以上かけて自転車などの支援物資を届けて下さったYさんに感謝いたします。Yさんは市民の意見30の会の初期のころ事務所に顔をだしてくださった人で、今も「市民の意

見」の読者です。当会の活動も安否確認+...:のことができるとういいですね。

市民の意見30の会は昨年11月総会を開きました。一般社団法人の役員は以下のとおりです。

一般社団法人市民の意見30の会  
代表理事 有馬保彦  
理事 北原博子、守谷和子、吉田和雄

ニュースの編集委員にも数年ぶりに新しいスタッフが加わりました。梶野宏さんはこれまで反戦、平和運動の現場に顔を出し、いくつものミニコミ編集にも携わってこられました。よろしく願います。

吉田和雄 (よしだ・かずお/本会事務局)



市民意見広告  
運動事務局  
たより

12月初旬に賛同チラシの大量発送を行なってから2ヵ月弱。事務局に届く賛同金が頭打ちになる時期。これでは5月3日の意見広告に赤信号。というところで2月中旬以降にこれまでの賛同者の方々に「再度のお願い」を発送します。もうすでに賛同してくださっている方には心苦しく申し訳ないと思うのですが、どうぞよろしくお願いします。

事務局からの大量発送はこの20年ほど、郵便でなくヤマト運輸のクロネコDM便（以前の名称はメール便）にお願いしてきました。「市民の意見」の発送も同じ。このDM便が新聞報道などでご承知の通り、2月より配達を日本郵便に全量委託することになりました（集荷はヤマト運輸）。それに伴っていろいろなことをヤマトと打ち合わせしなくてはならず、事務局は不安でおしつぶされそう。まず、料金。どのくらいの値上げになるのか？ 次に、信書でないことの証明をどうするか（DM便では信書は送れません）。封筒の開封は2分の1？ 3分の1？ DM便対応のシール印刷のシステム変更に伴ってうまく宛名シールが印刷できるのだろうか？ そのシール以外はDM便として扱わなくなるといっているので、その規格外の宛

名（2名以上連名の宛先）分、千通はどうする？ 等々、ぶっつけ本番の事態になっています（本誌今号が無事つきまますように）。

そんななかでも事務局にほっこりする出来事もあり、みんなで感謝したり、よろこんだりしています。年末には永年、賛同をしてくださっていた方の物故のお知らせとともに、お連れ合いのかたがお手紙とカンパに加え、美味しいお菓子を送ってください、スタッフのお茶の時間にありがたういただきました。もうひとつ、賛同者の方が小5のお孫さんの書いた読書感想文を送ってください、みんなで回し読みさせていたいただきました。題名は「中村哲物語を読んで」。この本を読むきっかけがおばあちゃんの家でみた「九条実現」の新聞広告だったこと。憲法九条は平和をまもるために戦争をしないことだということ。中村哲さんが平和を守るために、アフガニスタンで農業で暮らしがなりたつように力をつくしてきたこと。自分の好きなこと「昆虫採集・はちゅうるいの観察・手芸・工作・読書・テレビを見ること・生き物の観察・スポーツ・おりがみ・ハシビロコウ・アルマジロトカゲ」が続けられるように「平和」を大切にしたいことが綴られていました。この小さい人が好きなことをたくさん並べてくれたこと（好きなことがたくさんあるって素敵ですよ）

をととても嬉しく思い、この子の将来に戦争が影を落とさないように願うばかりです。同時に、世界で死と隣り合わせで暮らす子どもがいることをわすれてはならない。武力で平和はつけれない、当たり前前の理屈を伝えたい。「抑止力」などという言葉が跋扈する今を変えたい。事務局一同、同じ気持ちで広告掲載までがんばります。

北原博子（きたはら・ひろこ／市民意見広告運動事務局）

▼表紙絵の作者▲



西岡健児郎  
(にしおか・けんじろう)

1917（大正6）年7月6日生。高知県長岡郡天坪村角茂谷922番地出身。高知市立第二小学校、県立城東中学校（現・追手前高校）卒。1936（昭和11）年3月、県立高知師範学校（二部）卒業後、東京高等師範学校（現・筑波大学）美術専攻科入学。1939（昭和14）年3月卒業後、東京文理大学（現・筑波大学）心理学科入学。1943（昭和18）年12月25日、在学中に藤戸せつと結婚。1944（昭和19）年3月2日、応召。西部第34部隊所属。同年3月15日、部隊営庭にて機関銃の分解運搬訓練中に銃身で頭部打撲、脳底骨折を負い死亡（公傷死）。享年26。

## ★「地理学」の戦争責任

新潟県新発田市 轡田 勝  
「知られざる地理教育の戦争責任」このように、地理学を考えていませんでした。今のも息づく差別的民族観に述べられている通り、時々「顔を出し」をしています。気付いたら批判していきたいと思えます。

## ★同進会を応援します

東京都西東京市 増田弘邦  
祝200号。  
石川さん90歳。冴えていますね。

同進会の朴來洪さん、李鶴来さんのあとを継ぐ決意表明。西東京市民の会が応援します。

高嶋さんの教科書シリーズ期待します。

「市民の意見」会員増加を期待します。

## ★裏金問題にまどわされるな

大阪府高槻市 三上弘志  
裏金問題等で大きな変動に見舞われていますが、大事な争点が飛ばされそうで、却って心配です。社会のあり方、大切にしたいことの対決店の軸を揺さぶられてはいけない、その原点到憲法を据え直さねば、と思います。

## ★「殺すな！」

岩手県奥州市 澤田孝蔵  
ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザ侵攻。武器があるために、普通の市民が殺される。

る。

「殺すな！」大声で叫びたい。

## ★苦しい傍観者の私の心は……

神奈川県秦野市 酒井昭子  
また、まさかの戦争が。ガザから毎日、殺人や破壊の映像が届く。苦しい傍観者の私の心はずっと沈んでいる。

宇宙ステーションで仕事をしているほどに文明が進んだというのに、殺人や破壊を繰り返している人間の心は、何千年も前から少しも進歩していないではないか！ そんな中で決して若くはない、その両足でふんばって活動している「市民の意見」皆様に、ただただ頭を下げている私。

## ★日本をこわす政治家達

愛知県名古屋市長 波多野和子  
まさしく、今だけ、金だけ、自分だけ、とんでもない政治家達が日本をこわしています。未来を生きる若者達に何とかまともな国を残してゆけるかの正念場です。小さい力ながら頑張ります！

## ★意見や提起に気づかされ、学ぶことが多い

東京都世田谷区 徳山康子  
「市民の意見」のご送付いつもありがとうございます。皆様の意見や提起に気づかされることが、学ぶことが多いです。

## ★マスコミはどこに？

大阪府池田市 大西和典  
辺野古は、米軍が戦略的に疑問だという。ウ

クライナ、ガザの報道も一通り。若者のデモの話は出ない。私たちが現実を知るマスコミはどこに？

本誌200号の訂正をし、お詫び申し上げます。

\*玄順恵『ベトナムの冤魂を記憶せよ』

16ページサブタイトル

(誤) 韓国軍犯罪判決と日本との違い

(正) 「過去の克服」をめぐる

\*山田朗『軍拡の歴史から何が学べるのか』

5ページ2段目25行目

(誤) ②第2次世界大戦直後の1919 (大正

8)年

(正) ②第1次世界大戦直後の1919 (大正

8)年

\*田浪亜央江〈よそもの〉目線の広島⑩

37頁1段17〜23行

「いま起きていることはひどい、それは明らかだから(虐殺止める)というプラカードを持って、こうして原爆ドーム前に立っているけれど、正直パレスチナ問題と言われてもよく分からない。だからぜひ今度ちゃんと教えて下さいよ、田浪さん。」と記載していますが、文頭・文末の「」を誤って入れてしまいました。

# 編集後記

●本年1月の韓国大法院の判決により、戦時中の強制労働に対する12件の訴訟全てで日本企業の敗訴が確定することとなった。日本政府はこの問題は政治決着済みのはずと抗議したが、被害者の許諾がない限り、戦争犯罪に終わりはないはずだ。本誌前号で玄順恵さんにより、ソウル中央地裁が昨年2月、自国政府に対して韓国軍のベトナム戦争時の民間人虐殺の賠償を命じたことが紹介されている。自国他国を問わず、弱者一人一人に対する戦争責任に向き合う姿勢は正当なものだと思う。日本政府も、今も続く「黒い雨」「東京大空襲」等の被害者の賠償訴訟に真摯に向き合ってほしい。あつたことをなかつたことにしてはならない。なお、前号で玄さんがつけられた、「過去の克服」をめぐって」という印象的なサブタイトルを間違えてしまったことを、著者と読者の皆様に深くお詫びいたします。

(阿部めぐみ)

●退院後、やっと少し歩けるようになって、はじめての原稿、ナントカ書けてホッとしている。1月31日、私も原告の一人である「即位・大嘗祭違憲訴訟」地裁判決。こ

れまたはじめて、裁判所まで出かけた。予想通り、公然たる「政教分離原則破壊の国家の行為（神道儀礼への公金使用）」は、間わない判決。1月19日には、裁判にアメリカ国家が介入したことが明らかになっている。「砂川判決」をめぐる裁判でも、国がやることはみなOKの地裁判決。これを重ねて視えてくるのは、法治国家の「崩壊」はいくところまでいっている。自分の体の「崩壊」をなげいてばかりはいられない。できることはどんなに苦しくともナントカ持続したい。

(天野恵二)

●今号から、編集委員に二人の仲間が増えました。梶野宏さんと横山道史さんです。それぞれ60代と30代後半(?)の《若手》です。二人ともさまざまな市民運動と長い付き合いです。「若い知恵」が新しい誌面になり、各地の市民運動とつながることと思います。

(有馬保彦)

●今号からお手伝いすることになりました。日本も世界も本当にとんでもない方向へ向かいつつあるとひしひしと感じる毎日ですが、絶望せず、少しでも抵抗できることがあればそれを(無理をしないで)続けていこうと思っています。よろしくお願います。

(梶野宏)

●今年の元旦に起こった能登大地震は、石川県に大惨事をもたらした。多くの方々が

亡くなり、未だ行方のわからない方もいる。4万件もの家が倒壊し大勢の方々が避難所で生活している。この寒空にビニールハウスで生活している方々もいる。一番困るのは水だそうで、4万世帯の水道の復旧はまだまだかかりそうだ。今こそ国は資金も人材も人材も投入して能登半島地震の被災支援と復興に全力を注ぐべきだ。大阪万博に巨額税金を投入している場合ではない。

(西田和子)

●読者のみなさん、はじめまして。このたび、新たに編集委員の一員となりました横山道史と申します。かつて、ピープルズプラン研究所の事務局を担当していたことがあり、その時の縁で、天野さんとはいまでも関係が続いているのですが、その天野さんからお誘いを受け、微力ながら編集委員に名を連ねることになりました。そういうわけで、みなさん、これからどうぞよろしくお願致します。

(横山道史)

## 編集委員

阿部めぐみ

天野恵一

有馬保彦

(本号担当)

梶野 宏

北原博子

西田和子

横山道史

吉田和雄